

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第36集

国道122号バイパス関係

埋蔵文化財発掘調査報告

— II —

久 台

1984

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第36集

国道122号バイパス関係

# 埋蔵文化財発掘調査報告

—Ⅱ—

久 台

1984

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



## 序

埼玉県における道路網は、東北縦貫自動車道などの国土幹線道路と、地域開発、環境整備にともなう国道、県道の新設、改良が計画され、着々と整備されています。

一般国道122号線も、蓮田市関戸から岩槻市馬込までのバイパスが建設されることになりました。埼玉県教育局文化財保護課では、事前に路線内の遺跡の分布調査を実施し、慎重に協議を重ねた結果、7箇所の遺跡については、やむをえず、発掘調査を実施し、記録保存を行うことになりました。

久台遺跡の発掘調査は、埼玉県の委託を受けて財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施いたしました。本書は、その報告書であります。多くの新しい事実が発見されており、記録保存の成果としてはもとより、これらの資料の数々が教育、学術、文化の発展の一助となり、さらに文化財保護思想の普及啓蒙に、広く活用されることを念願しております。

最後になりましたが、発掘調査から報告書発刊に至るまで、種々御協力をいただいた埼玉県土木部道路建設課、杉戸土木事務所の方々及び、蓮田市教育委員会や地元の方々に深く感謝いたします。

昭和59年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 長 井 五 郎



## 例 言

- 1 本書は一般国道122号バイパスにかかる発掘調査のうち、蓮田市東、久台に所在する久台遺跡（蓮田3号）の発掘調査報告である。
- 2 発掘調査は埼玉県教育委員会文化財保護課の調整を経て埼玉県の委託により、昭和57年1月から昭和57年7月に亘って実施した。
- 3 整理・報告書作成作業は財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が昭和58年度に実施した。  
尚、調査の組織は2ページに示したとおりである。
- 4 出土品の整理および図の作成は橋本 勉が主にあった。
- 5 発掘調査における写真は橋本・藤原高志・水野裕之が、遺物写真は坂野和信・橋本が撮影した。尚、土器展開写真は小川忠博氏による。
- 6 遺物分布図の図化は、社会調査研究所に委託して行なった。
- 7 本書の執筆は橋本が主として行ない、V章の一部を木戸春夫が行ないその部分のみ文末に記した。
- 8 本書に掲載した挿図、図版の縮尺は次のとおりである。  
遺構（1/60、1/80）、土器実測図（1/3、1/4）、土器拓影図（1/3）、土製品（1/2）、石器実測図（1/1、1/2、1/3）
- 9 本書に掲載した遺構内遺物分布図の番号は、遺構内出土土器拓影図番号に照応する。遺構図水平レベルは、12.40mに統一した。
- 10 本書の編集は財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査研究部第5課の職員があたり、横川好富、小川良祐が監修を行なった。
- 11 本書を作成するにあたり下記の方々から御教示、御助力を得た。  
浅野晴樹、井上喜久雄、鈴木敏昭、谷井 彪

# 目 次

## 序

## 例 言

I 発掘調査に至る経過	1
II 発掘調査の経過	3
III 遺跡の立地と環境	4
IV 遺跡の概観	9
V 遺構と出土遺物	
1 縄文時代の遺構	10
2 縄文時代の遺物	54
3 古墳・歴史時代の遺構と遺物	178
4 近世期の遺構	181
5 近世期の遺物	197
VI 結 語	
1 縄文時代の遺構について	214
2 縄文時代後期初頭の土器について	227
VII 附 編	
1 久台遺跡出土土器の胎土分析結果報告	234
2 蓮田市久台遺跡試料分析報告（花粉分析）	247

## 挿 図 目 次

第1図 周辺の遺跡……………5	第33図 土壇(6) 第41号~49号土壇…………51
第2図 久合遺跡地形図……………6	第34図 土壇(7) 第50号~58号土壇…………53
第3図 久合遺跡全測図……………7	第35図 土壇(8) 第59号~60号土壇…………55
第4図 基本層序……………9	第36図 第1号住居跡出土土器分布図・構成表……………58
第5図 第1号住居跡……………11	第37図 第1号住居跡出土土器拓影図……………59
第6図 第2号住居跡……………13	第38図 第2号住居跡出土土器分布図・構成表……………60
第7図 第3号・4号住居跡……………14	第39図 第2号住居跡出土土器拓影図……………61
第8図 第5号・7号住居跡……………15	第40図 第3号住居跡出土土器分布図・構成表……………62
第9図 第6号住居跡……………16	第41図 第3号・4号住居跡出土土器拓影図……………63
第10図 第8号住居跡……………18	第42図 第5号・7号住居跡出土土器分布図・構成表(1)……………64
第11図 第10号住居跡……………19	第43図 第5号住居跡出土土器拓影図……………65
第12図 第11号住居跡……………20	第44図 第5号・7号住居跡出土土器分布図・構成表(2)……………66
第13図 第12号住居跡……………22	第45図 第6号住居跡出土土器分布図・構成表……………68
第14図 第13号住居跡……………23	第46図 第6号住居跡出土土器拓影図……………69
第15図 第14号住居跡……………24	第47図 第7号~9号住居跡出土土器拓影図……………70
第16図 第15号住居跡……………25	第48図 第10号住居跡出土土器拓影図……………71
第17図 第16号住居跡……………26	第49図 第11号住居跡出土土器分布図・構成表……………72
第18図 第18号住居跡……………27	第50図 第11号住居跡出土土器拓影図(1)……………73
第19図 第19号住居跡……………28	第51図 第11号住居跡出土土器拓影図(2)……………74
第20図 第20号住居跡……………30	第52図 第11号住居跡出土土器拓影図(3)……………75
第21図 第21号住居跡……………31	第53図 第11号住居跡出土土器拓影図(4)……………76
第22図 第22号住居跡……………32	
第23図 第23号住居跡……………33	
第24図 第24号住居跡……………34	
第25図 第25号住居跡……………35	
第26図 第26号住居跡……………36	
第27図 第27号住居跡……………37	
第28図 土壇(1) 第1号~6号土壇…………39	
第29図 土壇(2) 第9号、第11号~13号、第15号~18号土壇……………41	
第30図 土壇(3) 第19号~25号土壇…………43	
第31図 土壇(4) 第26号~31号土壇…………47	
第32図 土壇(5) 第33号~40号土壇…………49	

	……………76	第74图	土壤出土石器拓影图(4) 第9号、第11号~13号土壤……………	102
第54图	第12号住居跡出土土器分布图·构成表……………	第75图	土壤出土石器拓影图(5) 第14号、第16号~19号土壤……………	103
第55图	第12号住居跡出土土器拓影图……………	第76图	土壤出土石器拓影图(6) 第20号~25号土壤……………	104
第56图	第13号住居跡出土土器分布图·构成表……………	第77图	土壤出土石器拓影图(7) 第26号土壤……………	105
第57图	第13号住居跡出土土器拓影图……………	第78图	土壤出土石器拓影图(8) 第27号土壤(1)……………	106
第58图	第14号住居跡出土土器分布图·构成表……………	第79图	土壤出土石器拓影图(9) 第27号(2)、第28号、第29号土壤…	108
第59图	第14号住居跡出土土器拓影图……………	第80图	土壤出土石器拓影图(10) 第30号~35号土壤……………	110
第60图	第15号住居跡出土土器分布图·构成表……………	第81图	土壤出土石器拓影图(11) 第36号、37号土壤……………	111
第61图	第15号住居跡出土土器拓影图……………	第82图	土壤出土石器拓影图(12) 第38号土壤(1)……………	112
第62图	第16号住居跡出土土器拓影图……………	第83图	土壤出土石器拓影图(13) 第38号土壤(2)……………	113
第63图	第16号住居跡出土土器分布图·构成表……………	第84图	土壤出土石器拓影图(14) 第39号、40号、43号、45号土壤……………	115
第64图	第19号住居跡出土土器分布图·构成表……………	第85图	土壤出土石器拓影图(15) 第41号土壤……………	116
第65图	第18号住居跡、第19号住居跡(1)出土土器拓影图……………	第86图	土壤出土石器拓影图(16) 第44号~48号土壤……………	118
第66图	第19号住居跡出土土器拓影图(2)……………	第87图	土壤出土石器拓影图(17) 第50号~53号土壤……………	120
第67图	第21号住居跡出土土器分布图·构成表……………	第88图	土壤出土石器拓影图(18) 第54号土壤(1)……………	122
第68图	第20号~22号住居跡出土土器拓影图……………	第89图	土壤出土石器拓影图(19) 第54号(2)~58号土壤……………	123
第69图	第22号住居跡出土土器分布图·构成表……………	第90图	土壤出土石器拓影图(20) 第59号土壤(1)……………	124
第70图	第23号~27号住居跡出土土器拓影图……………	第91图	土壤出土石器拓影图(21) 第59号土壤(2)……………	125
第71图	土壤出土石器拓影图(1) 第2号~4号土壤……………			
第72图	土壤出土石器拓影图(2) 第5号土壤……………			
第73图	土壤出土石器拓影图(3) 第6号~7号土壤……………			

第92図	土壌出土土器拓影図(22) 第59号土壌(3) ……126	第113図	グリット出土土器拓影図(5) ……151
第93図	土壌出土土器拓影図(23) 第59号土壌(4) ……127	第114図	グリット出土土器拓影図(6) ……152
第94図	土壌出土土器拓影図(24) 第60号土壌(1) ……128	第115図	グリット出土土器拓影図(7) ……153
第95図	土壌出土土器拓影図(25) 第60号土壌(2) ……130	第116図	グリット出土土器拓影図(8) ……154
第96図	土壌出土土器拓影図(26) 第60号土壌(3) ……131	第117図	グリット出土土器拓影図(9) ……155
第97図	土壌出土土器拓影図(27) 第60号土壌(4) ……132	第118図	グリット出土土器拓影図(10) ……156
第98図	土壌出土土器分布図(1) ……133	第119図	グリット出土土器拓影図(11) ……157
第99図	土壌出土土器分布図(2) ……135	第120図	グリット出土土器拓影図(12) ……158
第100図	土壌出土土器分布図(3) ……136	第121図	グリット出土土器拓影図(13) ……159
第101図	土壌出土土器分布図(4) ……138	第122図	グリット出土土器実測図(1) ……160
第102図	土壌出土土器分布図(5) ……139	第123図	グリット出土土器実測図(2) ……161
第103図	遺構出土土器実測図(1) 1—第3号住、2、3—第7号住 ……141	第124図	土製品実測図 ……162
第104図	遺構出土土器実測図(2) 1—第11号住、3—第19号住、4—第21号住、2—第41号土壌 ……142	第125図	石器実測図(1) ……163
第105図	遺構出土土器実測図(3) 1—第5号土壌、2—第27号土壌、3—第36号土壌、4—第38号土壌 ……143	第126図	石器実測図(2) ……164
第106図	遺構出土土器実測図(4) 1—第48号土壌、2—第53号土壌、3—第54号土壌 ……144	第127図	石器実測図(3) ……165
第107図	遺構出土土器実測図(5) 第59号土壌 ……145	第128図	石器実測図(4) ……166
第108図	遺構出土土器実測図(6) 第59号土壌 ……146	第129図	石器実測図(5) ……167
第109図	グリット出土土器拓影図(1) ……147	第130図	石器実測図(6) ……168
第110図	グリット出土土器拓影図(2) ……148	第131図	石器実測図(7) ……169
第111図	グリット出土土器拓影図(3) ……149	第132図	石器実測図(8) ……170
第112図	グリット出土土器拓影図(4) ……150	第133図	石器実測図(9) ……171
		第134図	石器実測図(10) ……173
		第135図	石器実測図(11) ……174
		第136図	石器実測図(12) ……175
		第137図	石器実測図(13) ……176
		第138図	石器実測図(14) ……177
		第139図	第9号住居跡 ……178
		第140図	第17号住居跡カマド ……179
		第141図	第17号住居出土鉄製品実測図 ……179
		第142図	第17号住居跡、第28号住居跡状遺構 ……180
		第143図	I区近世遺構図 ……182
		第144図	II区近世遺構図 ……183
		第145図	■・SD1、■・SD9断面図 ……184
		第146図	III区近世遺構図 ……185
		第147図	■・SD1～■・SD4断面図 ……187

第148図	I・SB1	189	第168図	近世石器実測図(5)、板石塔婆	213
第149図	I・SB2	190	第169図	主柱穴分布図	215
第150図	II・SB1・2	191	第170図	遺構出土土器分布図	217
第151図	III・SB3	192	第171図	遺物分布図(1)(2)	218
第152図	SK1、SK2	193	第172図	遺物分布図(3)(4)	219
第153図	SK3、SK4	194	第173図	遺物分布図(5)(6)	221
第154図	SE1、SE2	195	第174図	遺物分布図(7)(8)	222
第155図	SE3~SE5	196	第175図	遺物分布図(9)(10)	223
第156図	土師質土器皿、陶磁器実測図(1)	198	第176図	遺物分布図(11)(12)	224
第157図	陶磁器実測図(2)	200	第177図	縄文時代後期初頭土器系統図	227
第158図	陶磁器実測図(3)	201	第178図	縄文時代後期初頭土器系統図	229
第159図	播鉢実測図(1)	203	第179図	三角ダイヤグラム、変型ダイヤグラム位置分類図	235
第160図	播鉢実測図(2)	204	第180図	Qt-Pl 相関図	237
第161図	内耳土器実測図(1)	206	第181図	Mo-Mi-Hb三角ダイヤグラム、Mo-Ch・Mi-Hb変型ダイヤグラム	242
第162図	内耳土器実測図(2)	207	第182図	HK1~5	243
第163図	内耳土器実測図(3)	208	第183図	HK6~10	244
第164図	近世石器実測図(1)	209	第184図	HK11~15	245
第165図	近世石器実測図(2)	210	第185図	HK16~20	246
第166図	近世石器実測図(3)	211	第186図	資料採取図	247
第167図	近世石器実測図(4)	212			

## 表

第1表	国道122号線関係遺跡	1	第5表	胎土性状表	241
第2表	土壌出土土器構成表(1) 第5号・26号・27号・29号土壌	134	第6表	試料表	247
第3表	土壌出土土器構成表(2) 第30号・38号・46号・47号土壌	137	第7表	久台遺跡試料花粉ダイヤグラム	249
第4表	土壌出土土器構成表(3) 第53号・54号・56号・58号土壌	140	第8表	久台遺跡試料花粉分析結果表	250

## 図 版 目 次

- 図版1 第1号住居跡、第2号住居跡  
図版2 第3号・第4号住居跡、第5号・第7号住居跡  
図版3 第6号住居跡、第8号住居跡  
図版4 第10号住居跡、第11号住居跡  
図版5 第12号住居跡、第13号住居跡  
図版6 第14号住居跡、第15号住居跡  
図版7 第16号住居跡、第18号住居跡  
図版8 第19号住居跡、第20号住居跡  
図版9 第21号住居跡、第22号住居跡  
図版10 第23号住居跡、第24号住居跡  
図版11 第25号住居跡、第26号住居跡  
図版12 第1号土壇、第2号土壇、第3号土壇、第4号土壇、第5号土壇、第11号土壇、第13号土壇、第15号土壇  
図版13 第16号土壇、第17号土壇、第19号土壇、第20号土壇、第25号土壇、第26号土壇、第27号土壇、第29号土壇  
図版14 第30号土壇、第31号土壇、第33号土壇、第35号土壇、第37号土壇、第38号土壇、第40号土壇、第41号土壇  
図版15 第43号土壇、第44号土壇、第45号土壇、第47号土壇、第48号土壇、第52号土壇、第54号土壇遺物、第54号土壇  
図版16 第3号・第7号住居出土土器  
図版17 第7号・第11号・第19号住居跡、第36号・38号土壇出土土器  
図版18 第21号住居跡出土土器  
図版19 第27号・第41号土壇出土土器  
図版20 第48号・第53号土壇出土土器  
図版21 第59号土壇出土土器  
図版22 第59号土壇・グリット出土土器  
図版23 グリット出土土器  
図版24 グリット出土土器  
図版25 縄文土器展開写真  
図版26 第1号住居跡出土土器、第5号住居跡出土土器  
図版27 第11号住居跡出土土器(1)、第11号住居跡出土土器(2)  
図版28 第12号住居跡出土土器、第19号住居跡出土土器  
図版29 第5号土壇出土土器、第26号土壇出土土器  
図版30 第26号土壇出土土器、第27号土壇出土土器  
図版31 第38号土壇出土土器(1)、第38号土壇出土土器(2)  
図版32 第54号土壇出土土器(1)、第54号土壇出土土器(2)  
図版33 第58号土壇出土土器、第59号土壇出土土器  
図版34 第60号土壇出土土器(1)、第60号土壇出土土器(2)  
図版35 石器(1)  
図版36 石器(2)  
図版37 石器(3)  
図版38 石器(4)  
図版39 第17号住居跡、第28号住居跡状遺構  
図版40 ■・SB1・2、陶磁器(1)  
図版41 陶磁器(2)、陶磁器(3)  
図版42 播鉢(1)、播鉢(2)  
図版43 土師質土器皿  
図版44 陶磁器(4)  
図版45 陶磁器(5)  
図版46 陶磁器(6)  
図版47 近世砥石・板石塔婆



## I 発掘調査に至るまでの経過

東北縦貫自動車道の開通に伴い一般国道122号線の交通量は一段と増加した。特に蓮田市内は渋滞が著しく交通量緩和の対策が要望されている。

埼玉県では、このような状況に対処するために、一般国道122号線蓮田市内のバイパス建設を計画した。道路建設などの開発事業に対して、文化財保護課では、文化財の保護に支障が無いよう事前の連絡調整を密接に実施している。

昭和50年10月29日付け道建第543号をもって「一般国道122号線（蓮田市内）建設予定地内の埋蔵文化財の所在について」道路建設課長から文化財保護課長へ照会がなされた。文化財保護課では、遺跡地図と照合し検討した結果を、昭和51年2月4日付け教文第960号をもって大旨下記のとおり回答した。

(1) 建設予定地内には現在7箇所の周知遺跡が存在する。1. 蓮田市№24遺跡 2. 蓮田市№19遺跡 3. 蓮田市№20遺跡 4. 蓮田市№10遺跡 5. 蓮田市№11遺跡 6. 蓮田市№4遺跡 7. 蓮田市№3遺跡

(2) 詳細については、さらに現地調査を実施する必要があること。

その後、両課において現地調査を行いながら、これらの遺跡の取扱いについて協議を重ねた結果、路線変更が困難であるため、やむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することが決定した。

この決定を受けて、道路建設課長から昭和54年4月19日付け道建第120号をもって「一般国道122号（蓮田市地内）道路改良事業区域内における埋蔵文化財発掘調査について」協議がなされた。文化財保護課では、昭和54年10月1日付け教文第704号により、調査の期間、範囲、経費と文化財保護課が直営で実施することを回答した。

法的手続きを終了した後、昭和54年11月から№7遺跡、№1遺跡と順次発掘調査を実施した。

また、昭和55年からは増大する公共事業に対処するために設立された財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に発掘調査は引き継がれた。

本書で報告する久台遺跡（№3遺跡）は昭和56年度に発掘調査を実施した遺跡であり、文化庁からは昭和57年1月20日付け委保第5の2396号をもって調査届を受理した旨の通知があった。

遺跡 No.	遺跡名称	所在地	時代	種別	備考
蓮田市1号	間戸足利	蓮田市間戸字足利	中世・近世	館跡	本年度報告 本報告 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第24集
2号	荒川附	間戸字野久保	弥生・古墳	集落跡	
3号	久台	東2丁目	縄文・近世	集落跡	
4号	ささら	東3丁目	縄文・弥生	集落跡	
5号	帆立	馬込字八番	弥生・古墳	集落跡	
6号	馬込新屋敷	馬込字七番	弥生・古墳	集落跡	
7号	馬込大原	馬込字七番	弥生・古墳	集落跡	

第1表 国道122号線関係遺跡

発掘調査の組織

1 発掘 (昭和56・57年度)

主 体 者	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理 事 長	長 井 五 郎		
		(前理事長)	関 根 秋 男		
		副 理 事 長	岩 上 進		
		(前副理事長)	本 郷 春 治		
		(前副理事長)	沼 尻 和 也		
		常 務 理 事	渡 辺 澄 夫		
		庶 務 経 理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	(前管理部長)	伊 藤 悦 光
				管 理 部 長	佐 野 長 二
					関 野 栄 一
					江 田 和 美 子
		福 田 啓 浩			
		福 田 浩 人			
		本 庄 朗 富			
発 掘	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	調査研究部長	横 川 好 富		
		調査研究副部長兼第五課長	小 川 良 祐		
		調査研究第三課長	谷 井 彪 勉		
			橋 本 高 志		
			藤 原 裕 之		
			水 野 裕 之		

2 整 理 (昭和58年度)

主 体 者	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理 事 長	長 井 五 郎		
		副 理 事 長	岩 上 進		
		常 務 理 事	石 川 正 美		
		庶 務 経 理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	管 理 部 長	佐 野 長 二
					関 野 栄 一
					江 田 和 美 子
					福 田 啓 浩
				福 田 浩 人	
				本 庄 朗 富	
		整 理	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	調査研究部長	横 川 好 富
		調査研究副部長兼第五課長	小 川 良 祐		
			橋 本 勉		

3 協 力 者

蓮田市教育委員会、地元区長および地元住民

## II 発掘調査の経過

今回の調査は、昭和57年1月から同年7月までの約7ヶ月にわたって行なわれた。調査は当初Ⅰ区、Ⅱ区から始め、最後にⅢ区に入った。始めに重機による表土剥ぎを行なったがⅠ区ではテストビットの予想に従って褐色上面で止めたが、Ⅱ区は予想以上に縄文包含層が破壊しており表土下直接ローム面であった。Ⅲ区でも同様であった。

1月 Ⅰ区包含層遺物取り上げ、及び遺物集中部分を中心に遺構の確認作業を行う。縄文期の遺構は、覆土が褐色、暗褐色系であり、かなり識別がむずかしい。これに反して、近世期の遺構は、黒色系で判断しやすい。近世期より遺構発掘を開始する。Ⅰ・SD1、Ⅱ・SD1、櫛列状遺構、各種土壌を検出する。Ⅲ区では陶磁器類も多く出土している。

2月 近世期の遺構発掘、図面、写真等を引き続いて行う。Ⅱ・SD9から比較的多くの遺物が出土する。縄文期の遺構発掘も開始する。第1号住居跡～第10号住居跡前後まで掘り進める。覆土がかなり薄く、遺物も少ないが基本的に張り出し部が認められる。時期は、称名寺～掘之内Ⅰ式である。縄文期土壌も同時に行う。縄文期の遺構は、15地区止まりである。

3月 近世期はほぼ終了する。写真、図面等の作成を行なう。15A、15B区で近世期の建築跡が確認された。縄文期は、引き続き、遺物分布数値測定と併行して掘り進める。第11号住居跡では比較的遺物が多い。Ⅲ区縄文期の遺構発掘も開始する。第19号住居跡以外は、ほとんど削平されている。土壌は削平を免れ、大形片も出土する。

4月 近世期終了、Ⅰ区で重複している第14～16号住居跡、Ⅱ区第25～27号住居跡まで調査する。遺物分布数値測定、平面図等の作業に力を入れる。第19号住居跡、第54号土壌は称名寺系と加曾利EⅣ系が併出している。第38号土壌は、焼土が充満しており土器細片が多数出土している。第27、55、59、60号土壌は掘り込みが非常に深い。第59、60号土壌については分布数値測定を放棄する。

5月 第38号土壌、第5・7号住居跡を中旬までに掘り下げ、ほぼ掘り込み作業は終了する。第7号住居跡からは、第3期に属する深鉢が2個体出土している。図面関係に力を入れ、下旬までに縄文関係の図面をほぼ終了する。中旬より、2m×2mのグリットを数十カ所ブラックバンドまで下げたが、遺物には当たらなかった。同時にⅢ区の表土剥ぎを重機によって行ない一部遺構確認作業を行う。

6月 Ⅰ、Ⅱ区終了し、全面的にⅢ区に入る。遺物はほとんど出土せず、溝-4、建築跡-2、住居跡-2である。溝から掘り始める。Ⅲ・SD4以外はいずれも浅い。建築跡も小規模なものである。遺物分布数値測定、図面関係も同時に行う。

7月 住居跡の掘り込み。1軒は「カマド」を有する。鉄鎌が一点だけ出土している。図面、写真撮影等を行い中旬にはほぼ終了する。又、ローム層もかなりの密度を下げたが遺物等の検出はなかった。未買収分を除いて、7月下旬には調査は終了した。

### Ⅲ 遺跡の立地と環境

久台遺跡は蓮田市東2丁目4133番地、他に所在し、東北本線蓮田駅の北東約400mである。大宮台地の東側に位置する岩槻支台に立地する。岩槻支台は西側を綾瀬川、東側を元荒川によって開析された北西から南東に延びる細長い洪積台地であり、標高は12m前後である。台地は入り込む小支谷によって複雑な舌状台地を形成し、緩斜面をなして元荒川、綾瀬川に移行する。本遺跡は岩槻支台のほぼ中央部東側に位置し、元荒川に面している。標高12m前後の平坦な台地上に立地し、東側は急激に元荒川に傾斜し、南側はゆるやかに小支に接続している。

次に久台遺跡の立地する岩槻支台、及び近接する大宮台地について見てみたい。当台地には各時代に亘る遺跡が濃密に分布しているが、本遺跡に関する時期のみピックアップして概観する。<sup>(註1)</sup>

旧石器時代では、本遺跡の他に国道122号関係で「ささら遺跡」<sup>(註2)</sup>、「関戸足利遺跡」<sup>(註3)</sup>等で散見するがいずれも良好な層土的出土ではない。付近では「尾山台遺跡」<sup>(註4)</sup>等で確認されているが全体として不明である。

さて本遺跡の中心時期である縄文時代後期初頭について見て行きたい。岩槻支台については分布調査が行き届いているのでそれらを参考として概観する。尚、マーキングは中期、後期とし、称名寺、堀之内、後期と記載のもの◎とする。通観すると大部分が標高10mライン付近に立地する。久台遺跡、馬込大原遺跡、馬込遺跡、平林寺遺跡、桜山遺跡、上野遺跡、裏慈恩寺東遺跡等は元荒川、芝川等に直接臨む台地上に位置する。並木のA、Bタイプのもので大部分である。次に雅楽谷遺跡等のCタイプが少数認められる。

次にかんりのばらつきはあるが、舌状に張り出す台地が一単位となっている感がある。すなわち、一台地上に1～3程度の分布が認められ、小支谷をはさんで対応関係が認められるかも知れない点である。この状況は久台遺跡とささら遺跡の関係が明瞭である。久台遺跡では相当数の住居跡を含む集落であるのに対し、ささら遺跡では土壌しか検出されていない。こうした関係は、馬込大原遺跡と馬込三番、四番遺跡、裏慈恩寺遺跡群、裏慈恩寺の北西に位置する鹿室上宿遺跡群等に認められるかも知れない。これら2遺跡、及び3遺跡の関係を一単位のまとまりと考えておきたい。<sup>(註5)</sup>

以上の諸遺跡の立地する環境はどのようなものであったろうか。国道122号関係の諸遺跡では★の3遺跡、馬込大原遺跡、ささら遺跡Ⅰ区、久台遺跡で花粉分析を行なった。その結果を概観する。馬込大原遺跡では縄文期の包含層からの資料は1点で上下の層を含むが、マツ属、コナラ亜属主体でスギ科、スギ属、ハンノキ属等から成る林地とされ、タンポポ亜科等が下草、もしくは平地に生育するとされる。低地遺跡であるささら遺跡Ⅰ区ではⅢ帯、Ⅳ帯が当時期で、草本類が著しく多く、コナラ、クヌギ、アカマツ、ハンノキ等の混生した二次林的樹林があり、河川等に沿った部分にキク科、イネ科等の草本植物の生育が認められる。久台遺跡では、後期初頭包含層、第27号土壌覆土を分析し、検出花粉が少ないが植物片が多くタンポポ亜科等の草地であった事がうかがえる。<sup>(註6)</sup>

以上の点から、集落跡の占地する環境は、タンポポ亜科等が育成する草地と思われ、背後に二次的樹林が占有していたと思われる。そして、この樹林には集落が入り込む事が少なかったものと思



第1図 周辺の遺跡

1. 久台遺跡、2. 黒浜樟山遺跡、3. 雅楽谷遺跡、4. ささら遺跡、5. 馬込大原遺跡、6. 馬込遺跡、7. 平林寺遺跡、8. 小深作遺跡、9. 真福寺遺跡、10. 桜山遺跡、11. 裏慈恩寺遺跡、12. 裏慈恩寺東遺跡、13. 丸ヶ崎遺跡

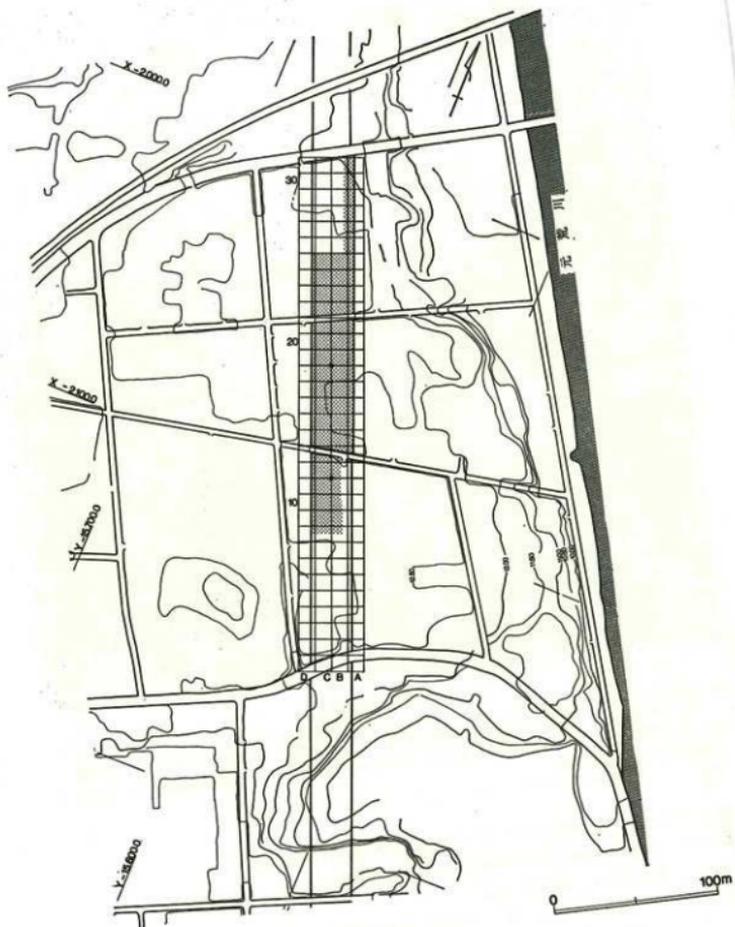
われる。同時に、前述の集落のまとまりと二次的樹林の関係が重要な点となろう。

注1～3 近世関係は割愛。岡戸足利遺跡（今年度刊行）、調査報告—I—（1983）参照。

注4 新編埼玉県史 資料編1（1980）

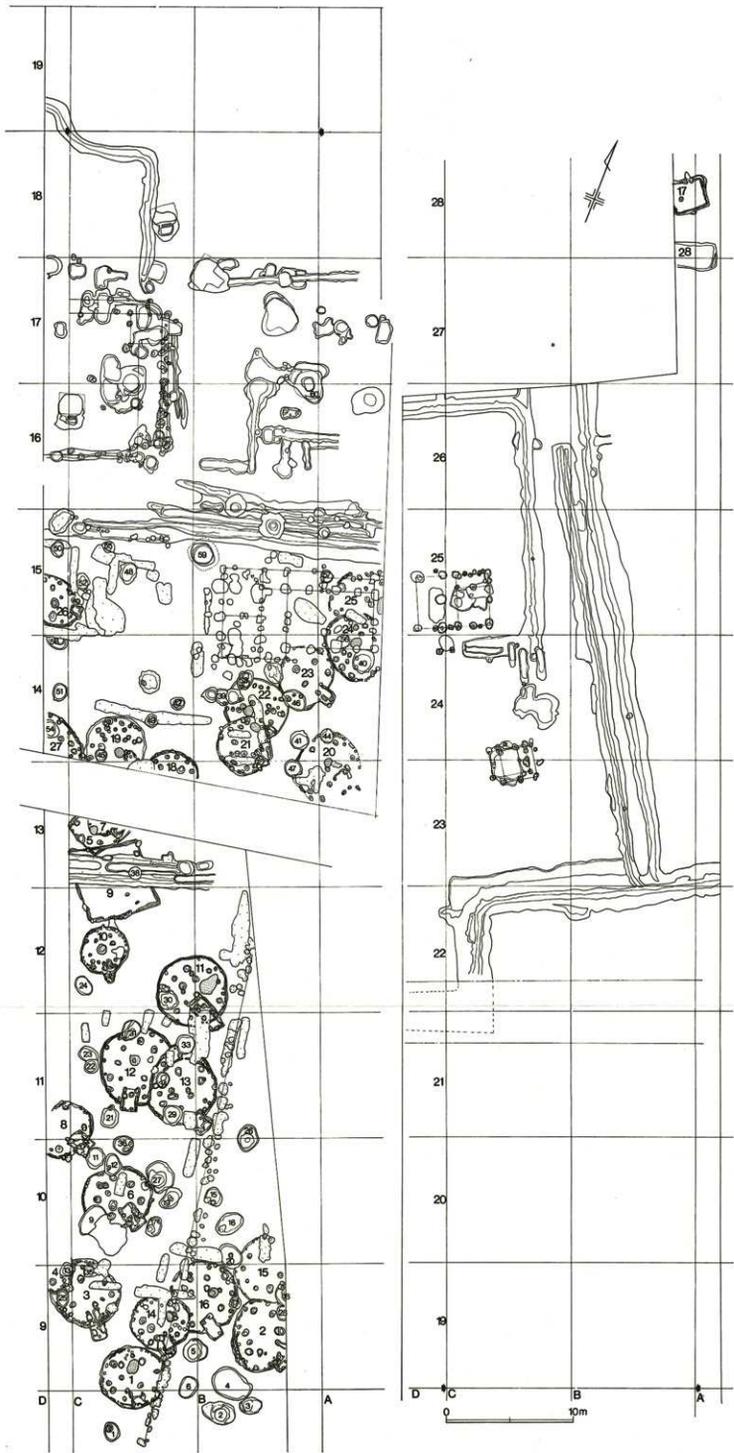
注5～7 並木（1976、1977）、岩槻市史—考古資料編—（1983）を参考とした。

注8～10 久台遺跡は本書Ⅶ章参照、他は次年度掲載予定。この他、寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書—自然遺物編—（1982）を参考とした。



第2圖 久台遺跡地形図

第3圖 久行遺跡全圖



## Ⅳ 遺跡の概観

久台遺跡は、元荒川に臨む台地の東端に位置し、事業路線に直交する道路によって南からⅠ～Ⅳ区に分けられる。このうちⅠ～Ⅲ区が本年度の報告分である。尚、Ⅰ区では南側の半分、Ⅲ区では北西側の一部が未買取分で調査を行っていない。

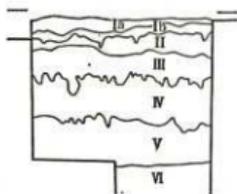
調査区は、事業路線中心線を基準として、10m×10mの大グリットを設定した。東から西へA～D、南～北へ1～32とする。さらに大グリット内を2m×2mに分割して調査を行った。N-22°-Eの角度を有するグリットである。ポイントの座標は関東地区座標原点第Ⅰ系を使用し、2地点表記しておく。(第2図 ⊙) 北がX=-2,022.286、Y=-15,601.197、南がX=-2,086.874、Y=-15,574.211である。

縄文期の遺構は8～16グリットにかけて位置している。北限は土壌が第60号土壌、住居跡が第25号住居跡である。南側は未調査部分に続いている。ほぼ北限は確認されたものと思われる。路線内の調査区は集落の住居跡集中部分を貫いており弧状に住居跡が分布している。弧は東側を向いており、東側にさらに延び、円、又は馬蹄形状の集落を形成しうものと思われる。住居跡は第5号住居跡を除いていずれも円形を基本とし、入口部が判明する。いずれも東～南方向を示している。土壌は住居跡と分布を一致させており、特に集中する部分等は認められなかった。集落内側発掘時の課題であろう。形態は、ほぼ3種類に分類可能であり、第59号土壌、第60号土壌等のように粘土採掘塊と想定されるものが北側に分布している。

古墳・歴史時代は、1～2軒の住居跡がボツンと存在する。これは当地方の傾向を表わしている。国分期と想定される住居跡は調査区の北端に位置する。浅い谷に面している。

近世期の遺構は、調査区全面に分布している。こうした傾向は国道122号線関係遺跡群では一般的である。溝、土壌、建築跡、井戸から成っている。諸遺跡を過覧して見ると主軸方向が大略2種類に分かれるらしい。ほぼ現在の区画に沿うN-22°-E付近を示すものと、大体N方向を示すものである。N方向を示す棚列状遺構は関戸足利遺跡の方向と大略一致している。N-22°-E付近を示すものは、ささら遺跡、馬込新屋敷遺跡、本遺跡で見られる。Ⅲ区では溝と建築跡との関係が理解しうる。ささら遺跡Ⅲ区の状況と同様である。ささら遺跡Ⅲ区では溝、建築跡、井戸の関係がよく理解される。建築跡については、本遺跡で5軒検出され、Ⅱ・SB2、Ⅲ・SB3で構造がよく理解できた。いずれも右勝手の家である。遺物は陶磁器類、内耳土器が溝から主に出土している。近世末期のものが中心である。

層序は、Ⅰb層が近世包含層。Ⅱ層が褐色土で縄文期の包含層、ソフトロームとの境が明瞭でなくⅢ層ハードローム層に到る。Ⅳ・Ⅴ層はブラットバンド。Ⅵ層は粘性の強い明褐色ロームである。



第4図 基本層序

## V 遺構と出土遺物

### 1 縄文時代の遺構

久台遺跡における縄文時代の遺構検出作業については、当初より困難が予想された。当地方においては、縄文時代後期初頭の包含層が合地上ではきわめて薄い事、ローム層にまで達する掘り込みの深い住居跡が少ない事等によりプランが確認された面が床面であったり、炉址の出現によって住居跡の認定が行われる場合がしばしば見受けられた。従って、調査に先立って次の諸点を留意し、調査の実施を行った。

- 1 住居跡のプラン確認を出来る限り上面から行う。従って、包含層から人力で発掘を行なう。
- 2 1に従って、包含層から遺物記録を行う。
- 3 当初よりコンピュータ処理を想定して、時間及び調査員の労力の省力化を計る。

以上の3点の留意事項は、Ⅰ区とした、南側の調査区では、褐色系の包含層が残っており、ほぼ実行できたが、Ⅱ区とした中央部の調査区では、近世遺構による削平、攪乱がローム層にまで達しており、Ⅰ層を除去するといきなり炉址が出現する状況で実行は放棄せざるを得なかった。

#### 1-1 住居跡

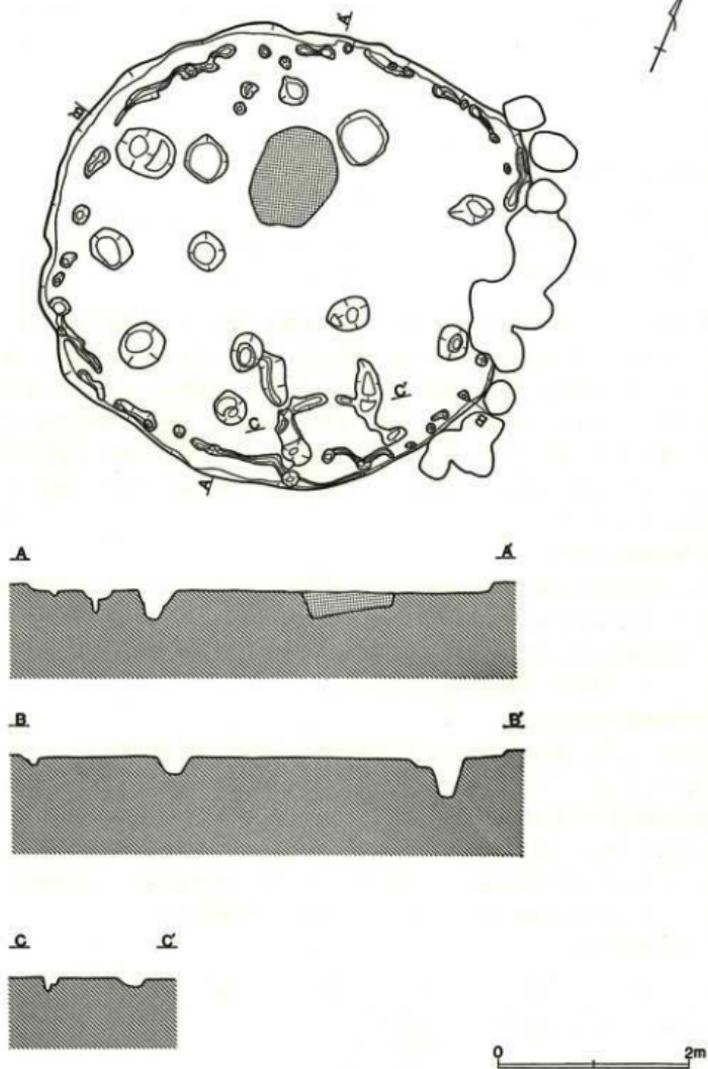
##### 第1号住居跡 (第5図)

8C～9C区に位置する。主軸方向N-39°-W。長径-5.50m、短径-5.00m前後の略円形を呈する。掘り込みは、0.10m前後ときわめて浅く、覆土は褐色系である。床面は、全体に軟弱であり、炉址周辺で若干の固さを持っている。柱穴は、円形プランに沿って廻る6本が支柱穴と思われる。他に西側に3ヶ所検出されているが、これは他の住居跡と同様の傾向である。壁溝は、北側と南側に認められるがいずれも浅く幅も狭いもので壁孔と連動する。壁孔は、直径-0.10m前後で浅く、ほぼ均等に壁下を全周する。入口部は住居跡南側に確認される。壁内の小溝が方形に配され、中央部に面して対ビットを持っている。炉址は、住居跡中央部から北に寄って検出された。1.20m×0.90mの楕円形プランを有し、掘り込みもかなり深く、焼土の堆積、底面のロームの焼け具合等良好でかなり大型の炉址である。尚、東側は、Ⅰ・SA1に切られている。

##### 第2号住居跡 (第6図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)
3	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)

9B区に位置する。東側は、調査区外、北側は第15号住居跡と接するが新旧関係は明らかでなかった。主軸方向N-59°-W。住居プランは、長径-5.70m、短径-4.90mの楕円形を呈する。掘り



第5图 第1号住居跡

込みは、0.20m前後と比較的深く、覆土は褐色系で、床面は全体に軟弱である。柱穴は、楕円形プランに沿って廻る6本が主柱穴と思われる。主柱穴と壁の間には、小柱穴が比較的均等に配される。

壁溝は、西側及び北側に認められた。特に西側は、壁からかなり離れており、壁孔も2重である点から住居の拡張が行なわれたものと思われる。壁孔は、壁溝及び壁に沿って全周する。入口部は、南東に方形の小張り出しを有して配される。床面とはフラットで、張り出し部に小ピット、中央部に面して対ピットが設けられる。炉址は検出されなかった。

### 第3号住居跡(第7図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 明褐色	ロームブロック(少)、ローム粒子(少)、カーボン粒子(少)
2	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ロームブロック(少)、ローム粒子(少)

9C区に位置する。第4号住居跡に切られる。又、東側は、SXによって攪乱されている。主軸方向N-40°-W。長径-6.50m、短径-5.65m前後の楕円形プランを呈する。掘り込みは、0.15m前後で浅く、覆土は褐色系で床面は軟弱である。柱穴は、あまり規則性がないが、プランに沿って廻る6本柱穴と思われる。北側から西側にかけて小柱穴が配される。壁溝は、南側にわずかに認められた。壁孔は、壁に沿って全周する。入口部は、南東部にかなり長く張り出す。床面とのレベルは、ほぼ平行で、対ピットの的に長方形の浅いピットが配され、中央に面して対ピットが設けられる。炉址は検出されなかった。

### 第4号住居跡(第7図)

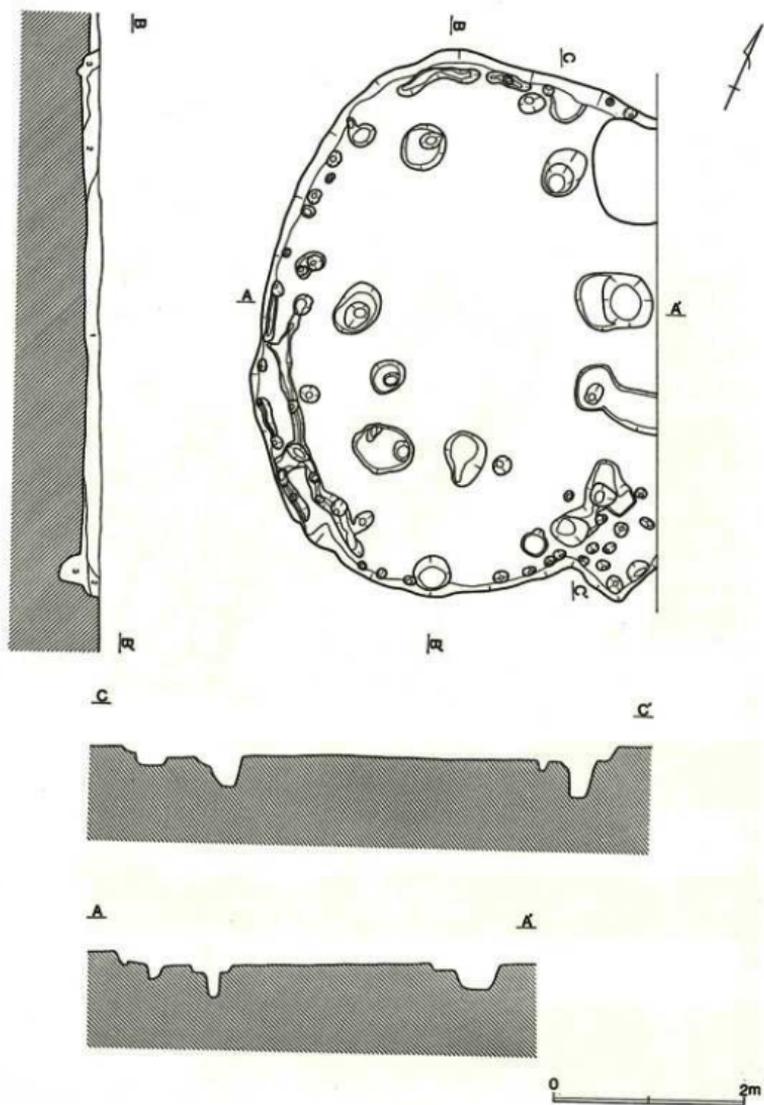
9D区に位置する。西側大部分が調査区外であり規模は不明であるが、かなり小型で円形の住居跡である。主軸方向N-66°-W。柱穴は、2ヶ所検出されたが、主柱穴かどうかは不明である。壁溝は、南側に検出され、壁孔は、壁に沿って全周する。入口部は、南東部にわずかに張り出して配され、小ピットを有する。炉址は検出されなかった。

### 第5号住居跡(第8図)

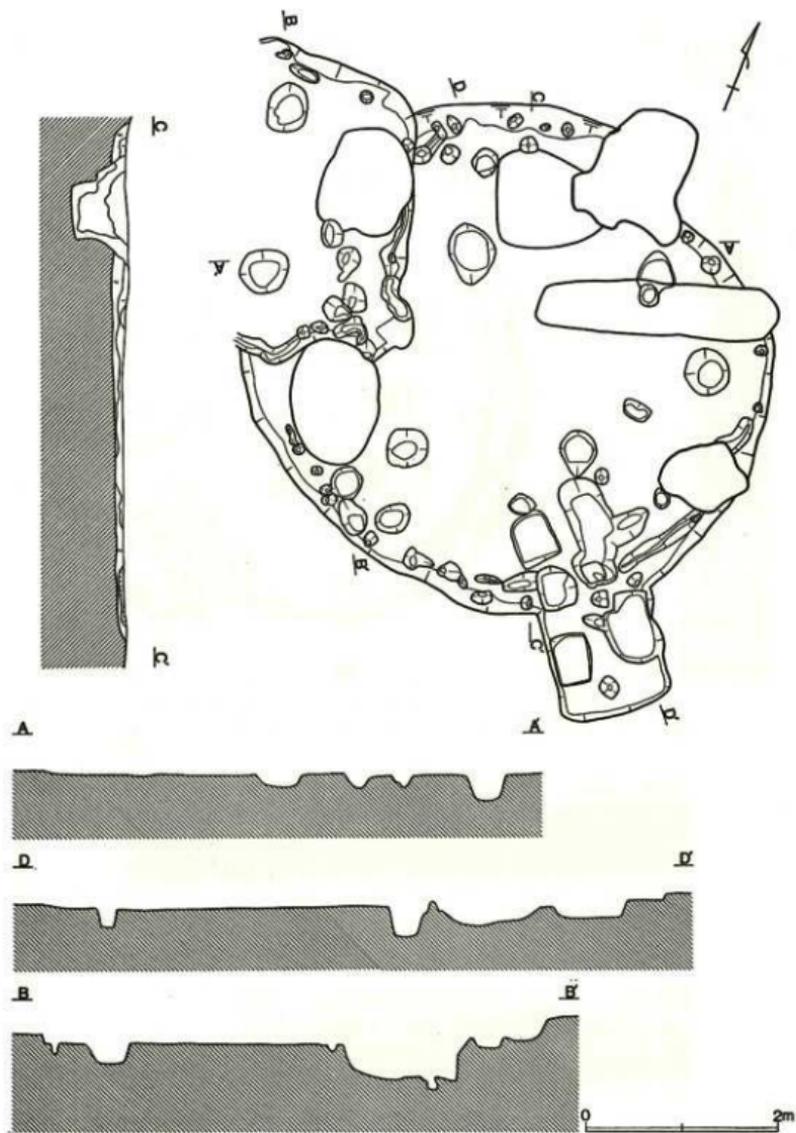
13C区に位置する。北側は道路によって未調査である。中央部を第7号住居跡によって切られる。主軸方向N-27°-E。プランは、短径-3.50m前後の方形を呈するものと思われる。掘り込みは浅く、覆土は褐色系で床面は軟弱である。柱穴は、プランに沿って主柱穴が2ヶ所検出されている。壁溝、壁孔は、壁下にまばらに配される。入口部施設は検出されなかった。炉址は、中央部に検出されたが、大部分は第7号住居跡によって切られている。焼土の堆積等は薄い。本住居跡は、他の円形プランを有する住居跡群と比して方形プランを有する点で特異である。

### 第7号住居跡(第8図)

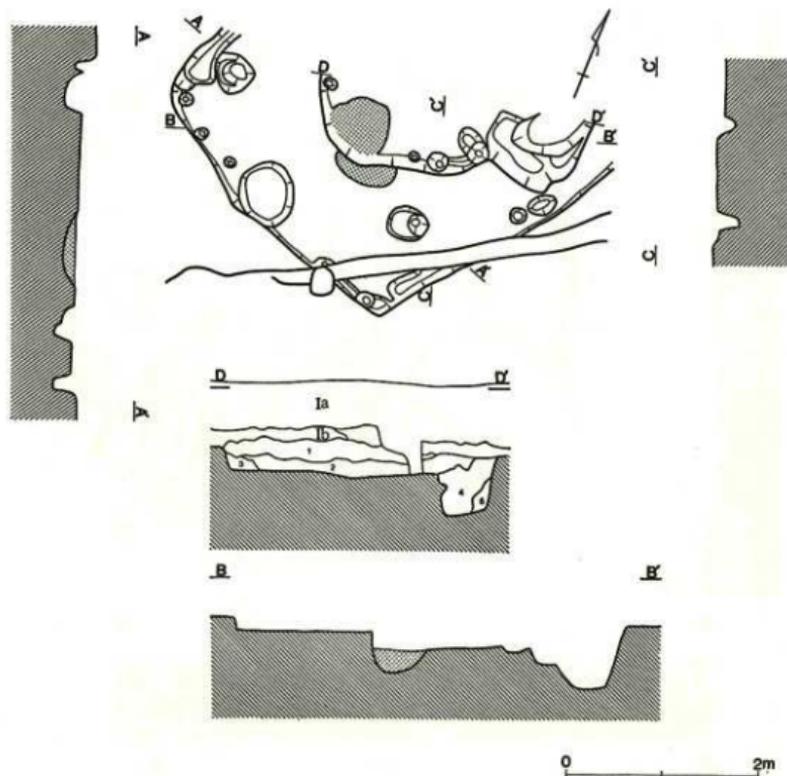
層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ローム粒子(少)
2		ローム小ブロック(少)
3	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ロームブロック(少)
4		ローム小ブロック(少)
5		ロームブロック(少)



第6图 第2号住居跡



第7图 第3号·4号住居跡

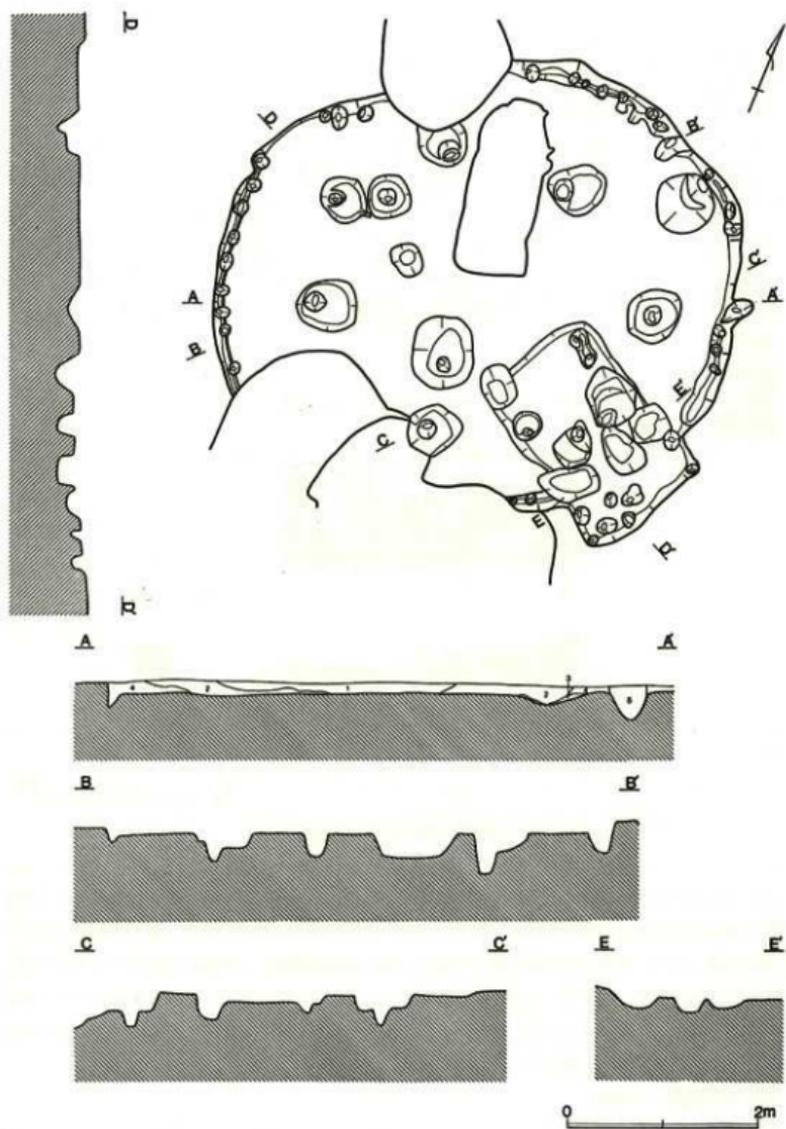


第8図 第5号・7号住居跡

13C区に位置する。第5号住居跡を切って構築される。主軸方向N-87°-W。北側半分以上が道路下で未調査である。規模は不明であるが、かなり小型で特殊な構造を持つ。掘り込みは、深さ一0.20m前後と浅く、第7号住居跡床面より低い。床面は比較的固い。主柱穴は検出されず、壁下に壁孔がわずかに廻る。南東側に方形の張り出しを有する。入口部と想定されるが床面から0.40m前後の深さがあり若干疑問視される。炉址は、南西壁下に検出された。直径一0.50m前後で土士の堆積、ロームの焼け具合も良好である。

第6号住居跡(第9図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ロームブロック(少)、ローム粒子(少)
2	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ロームブロック(少)、ローム粒子(中)



第9圖 第6号住居跡

3		ロームブロック (多)
4	Hue 7.5 YR 5/6 明褐色	ロームブロック (中)、ローム粒子 (少)
5	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)

10C区に位置する。南側を第7・9号土壌に、北側を12号土壌、近世SXに切られている。主軸方向N-57°-W。プランは、5.50m前後の略円形を呈する。掘り込みは、0.15m前後と浅く、覆土は褐色系であり、床面は軟弱である。柱穴は、円形プランに従って廻る6本が主柱穴と思われる。壁溝は、壁孔と連動しつつほぼ全周する。壁孔は、直径—0.10m前後の小ビットであり、やはり壁に沿って全周する。入口部は、南東側に検出された。壁外へ若干張り出し、住居内側で方形状に浅く掘り込まれ、全体として長方形を呈する。床面とのレベル差は、ほとんどなく、張り出し部に壁孔が、壁内には対ビット的に浅いビットが配される。炉址は確認されなかったが、住居跡中央部に配される浅いビットが本来配される位置である。

#### 第8号住居跡 (第10図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ロームブロック (少)、ローム粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ロームブロック (少)、ローム粒子 (中)

11C・11D区に位置する。西側は調査区外である。主軸方向N-74°-W。長径—0.46m前後の楕円形を呈するものと思われる。掘り込みは浅く、床面は軟弱、覆土は褐色系である。柱穴は、3ヶ所検出された。4本柱を持つものと思われる。壁溝は部分的に認められ、壁孔は全周する。入口部は南東部に検出される。壁外にわずかに張り出し、壁内は長方形に浅く掘り込まれる。4個が対ビット的に配され、溝状の浅い不定形のビットが見られる。炉址は、確認されなかった。

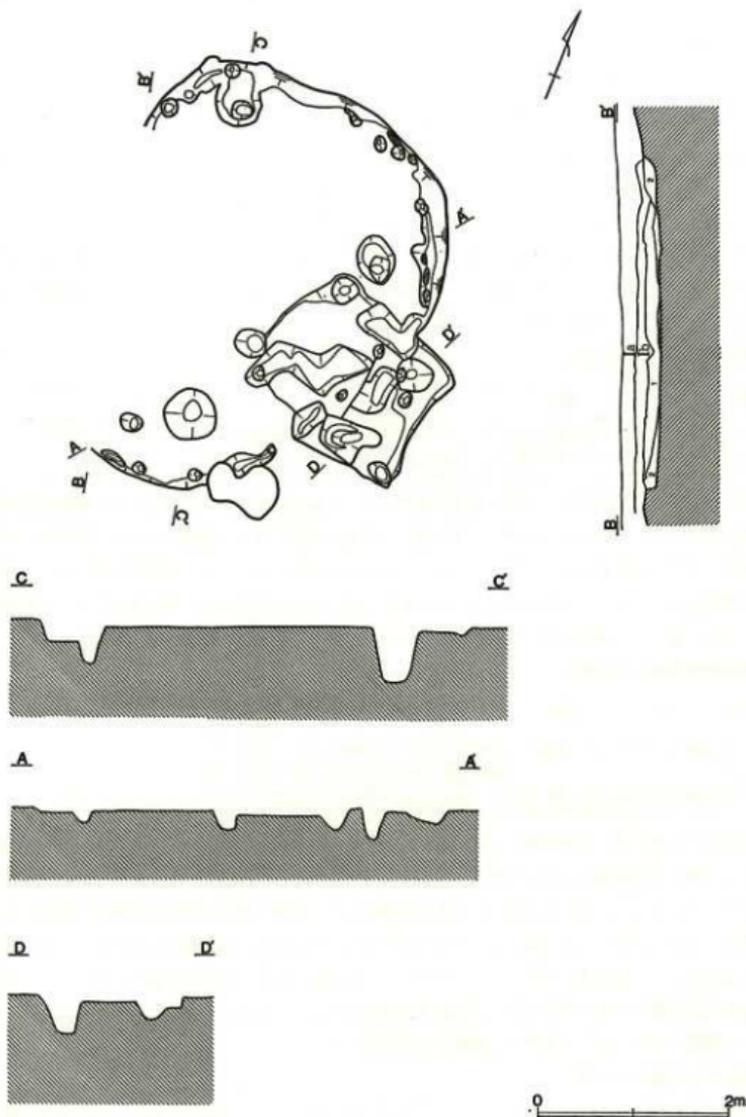
#### 第10号住居跡 (第11図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	褐色軟質ブロック (中)、ローム粒子 (少)
2		褐色軟質ブロック (多)、ローム粒子 (少)
3	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ロームブロック (少)、ローム粒子 (少)

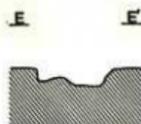
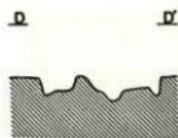
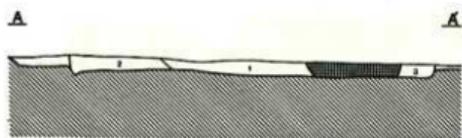
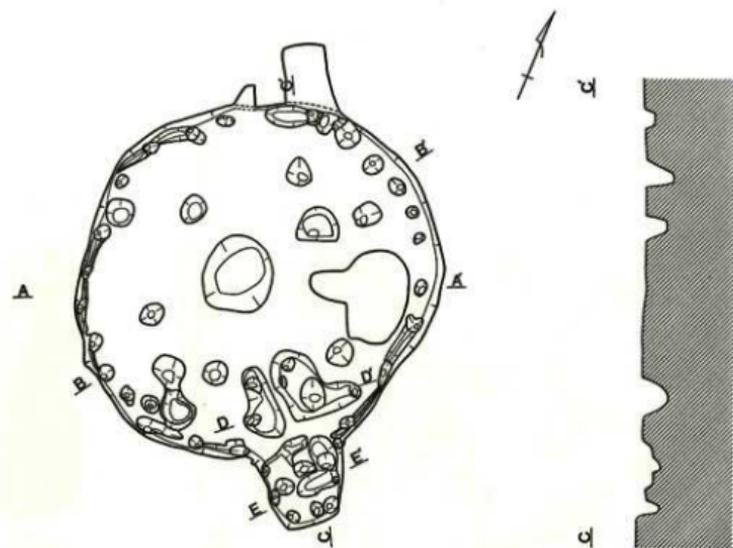
10C区に位置する。主軸方向N-38°-W。直径—3.80m前後の円形プランを呈する。東側に攪乱が入る。掘り込みは浅く、床面は軟弱、覆土は褐色系である。柱穴は、中央部に円形に廻る6本が主柱穴と思われる。直径—0.25m前後と他住居跡に比して小径である。壁溝は部分的に配される。壁孔は全周するが壁から若干離れている点特徴である。入口部は、南東側に検出された。張り出し部が比較的長く、壁内は、溝状のビットが対ビット的に配される。張り出し部内には小ビットが多く配され、床面レベルより若干低い。炉址は、検出されなかったが、中央部に0.80m前後の浅いビットが検出されている。本来炉址が位置する場所である。

#### 第11号住居跡 (第12図)

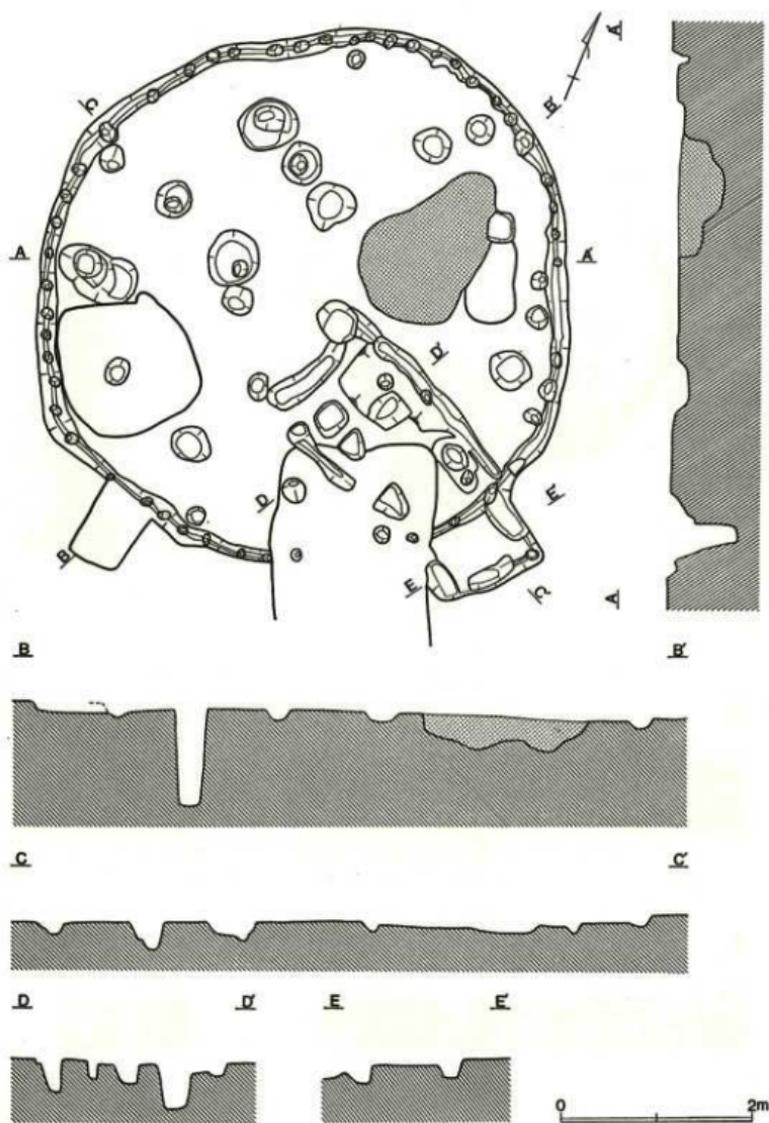
12B・12C区に位置する。炉址付近及び、南側が近世SXによって切られる。主軸方向N-56°-W。直径—5.50m前後の円形プランを呈する。掘り込みは浅く、床面は比較的しっかりしており固い。覆土は褐色系である。柱穴は多数検出されているが壁に沿って円形状に廻るものが主柱穴であ



第10图 第8号住居跡



第11图 第10号住居跡



第12图 第11号住居跡

ろう。他に住居跡中央入口部の延長部に柱穴が配される。主柱穴と壁の間には、比較的規則的に小柱穴が配される。壁溝、及び壁孔は連動しつつ全周する。入口部は、南東側に検出された。壁外に方形に若干張り出し、住居内は、細い溝によって長方形に区画され、中央部にまで達する。張り出し部と床面のレベルは、ほぼ同一である。ピットは、対ピットが3列並ぶ。炉址は、中央部北側に位置する。長径—1.90m、短径—1.25mの楕円形を呈する。深さ—約0.45mとかなり深く、焼土の堆積、ローム層の焼け具合等良好であり、かなり大型の炉址である。

#### 第12号住居跡（第13図）

11C区に位置する。北側を第31号土壌に、東側を第13号住居跡に切られている。主軸方向 N-17°-W。掘り込みは浅く、床面は軟弱であり、覆土は褐色系である。柱穴は、中央部に円形に廻るものが主柱穴と思われる。他に入口部付近に對に配される柱穴がある。壁と主柱穴の間には、規則的に小柱穴が配される。壁溝と壁孔は連動しつつ全周する。入口部は南側に検出された。壁外にわずかに張り出し、全体として長方形に浅く掘り込まれる。両側に小溝、住居中央に面して対ピットが配される。炉址は検出されなかったが、中央部に浅い掘り込みのピットを有する。炉址の位置である。

#### 第13号住居跡（第14図）

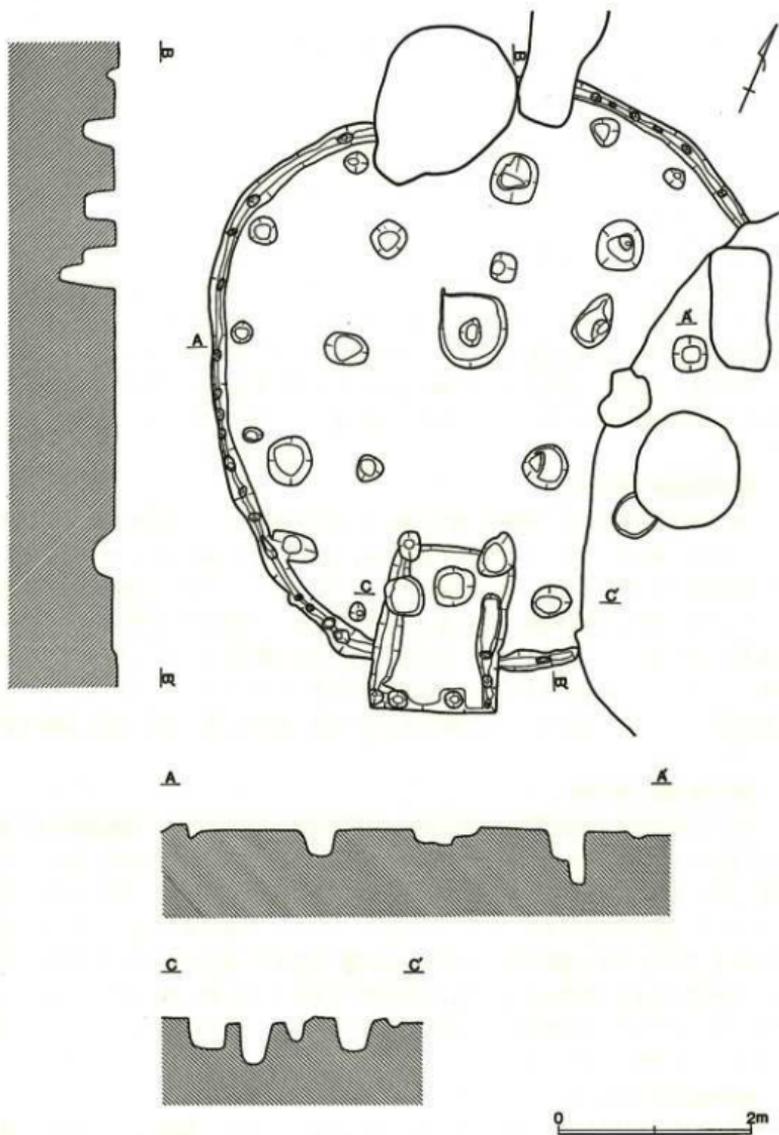
11B・11C区に位置する。第29号、33号土壌、近世SXに切られる。主軸方向 N-65°-W。第12号住居跡より新しい。掘り込みは浅く、床面は軟弱、覆土は褐色系である。長径—6.30m、短径—5.40m前後の楕円形を呈する。北方向に拡張されている。柱穴は、中央部に円形に廻るものが主柱穴と思われ、後に北方向に拡張される。壁溝、壁孔は連動しつつ全周する。北側は、拡張の關係上壁溝は2重である。入口部は、南東側に位置する。壁外に長方形に張り出し、壁内は、小溝で区画して全体的に長方形を呈する。床面と張り出し部のレベル差はなく、長方形の浅いピット、住居内側に対ピットを有するものと思われるが、近世SXに切られており不明である。炉址は確認されなかった。

#### 第14号住居跡（第15図）

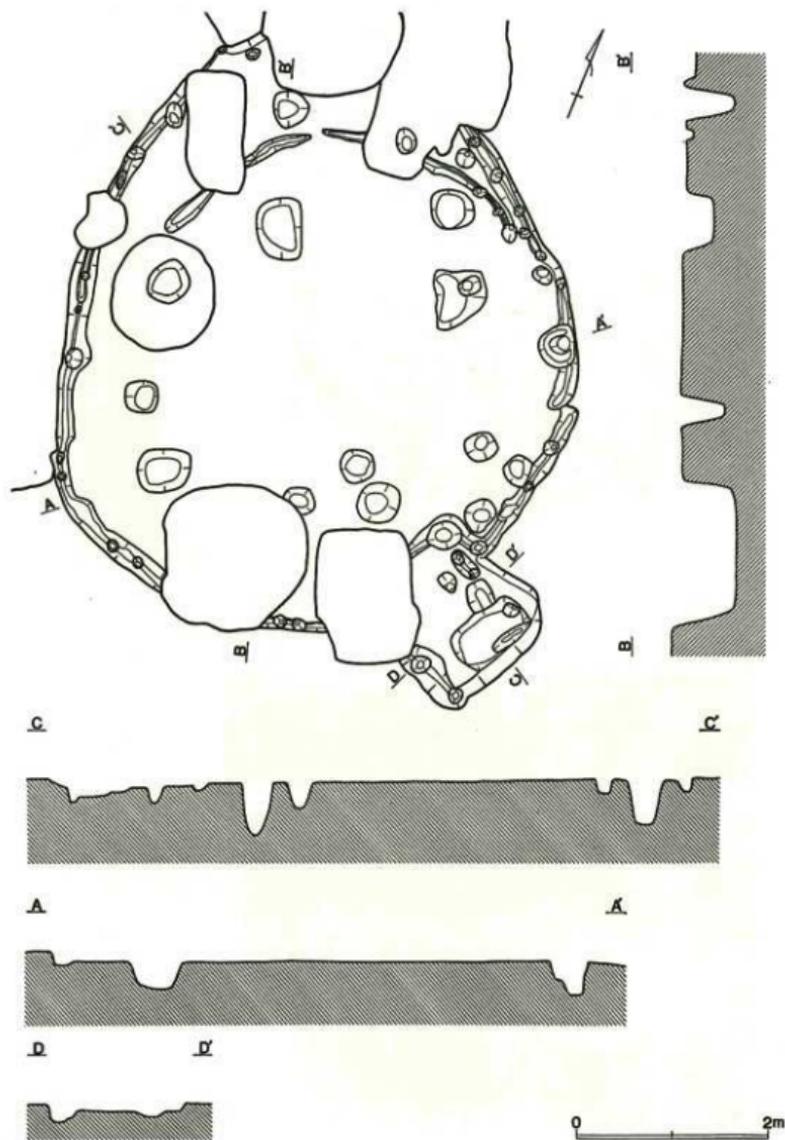
9C区に位置する。第16号住居跡より新しい。北側を近世SXに切られる。主軸方向 N-41°-W。住居跡プランは、長径—4.80m、短径—4.30m前後の楕円形を呈する。掘り込みは、きわめて浅く、覆土は褐色系で床面は軟弱である。柱穴は、中央部に円形に廻る6本の柱穴が主柱穴と思われる。他に西側に性格不明の柱穴が2ヶ所検出されている。小柱穴は、西側に多く見出された。壁溝は部分的に検出され、壁孔と連動する。入口部は、南東部に位置する。壁外にわずかに張り出し、壁内は、中央部に向う2本の溝によって不定確な長方形を呈する。張り出し部中央及び中央部に向って、それぞれ、対ピットが配される。炉址は、確認されなかったが、中央部東側に浅いピットが確認され、本来炉址の位置である。

#### 第15号住居跡（第16図）

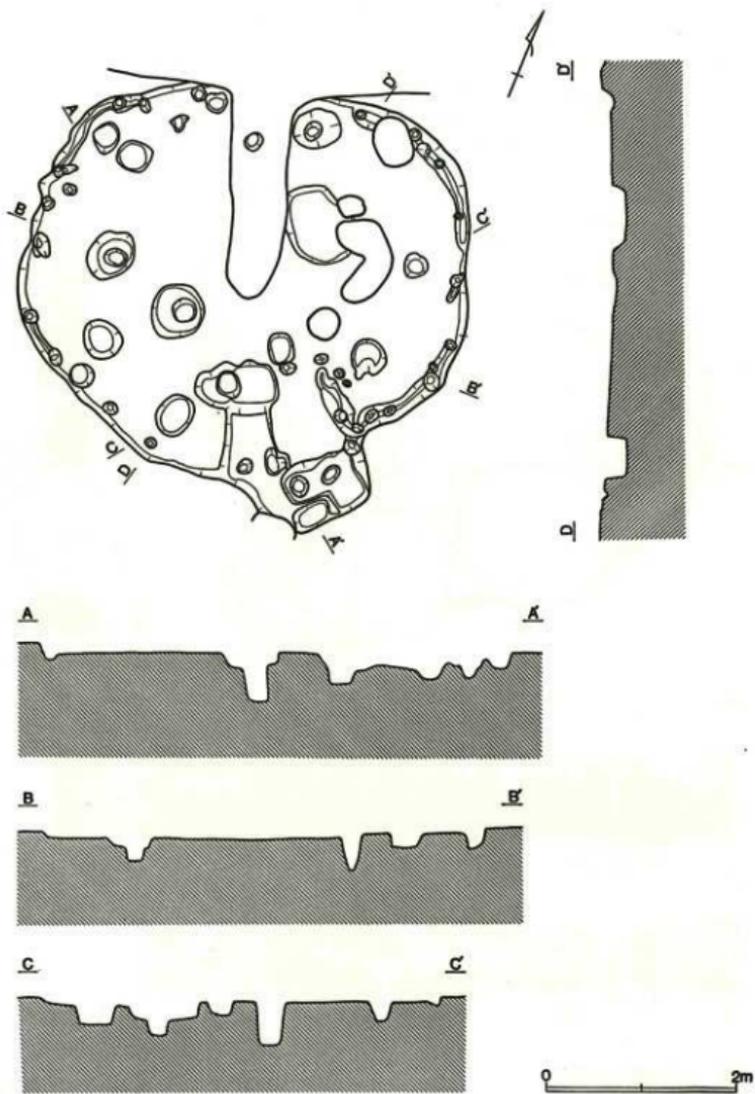
9B・10B区に位置する。北側を近世SXに、南側を第2号住居跡、第18号土壌、第20号土壌に切られている。東側は調査区外である。住居跡プランは、5.40m前後の円形プランを呈するものと思われる。掘り込みは、きわめて浅く、床面は軟弱で覆土は褐色系である。柱穴は、中央部に円形



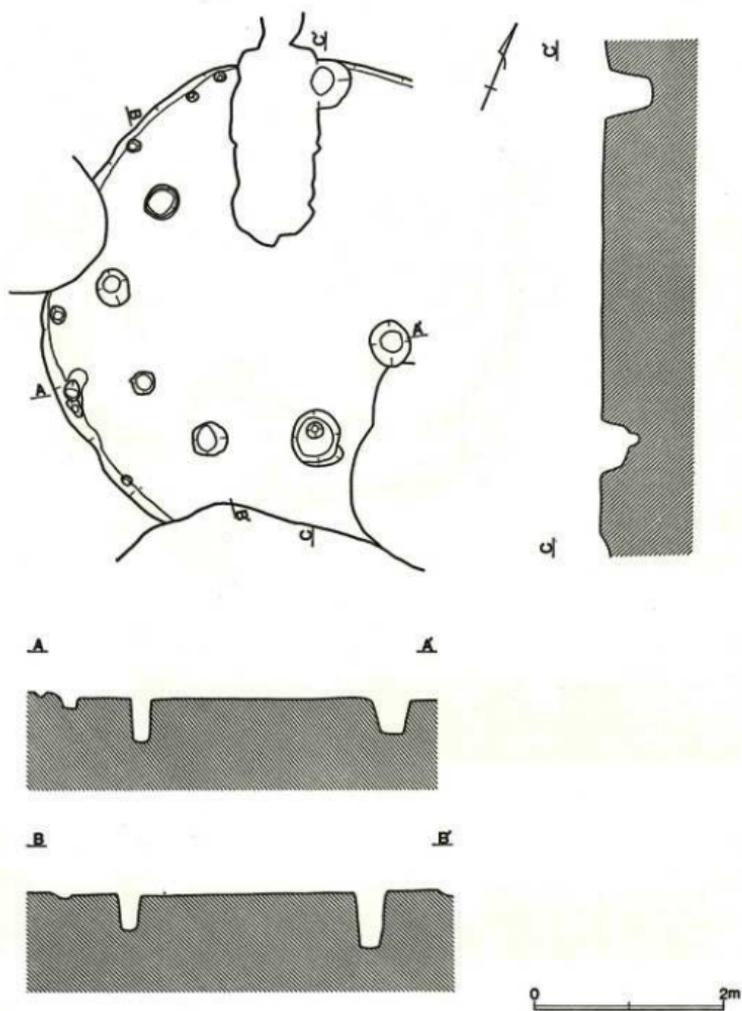
第13图 第12号住居跡



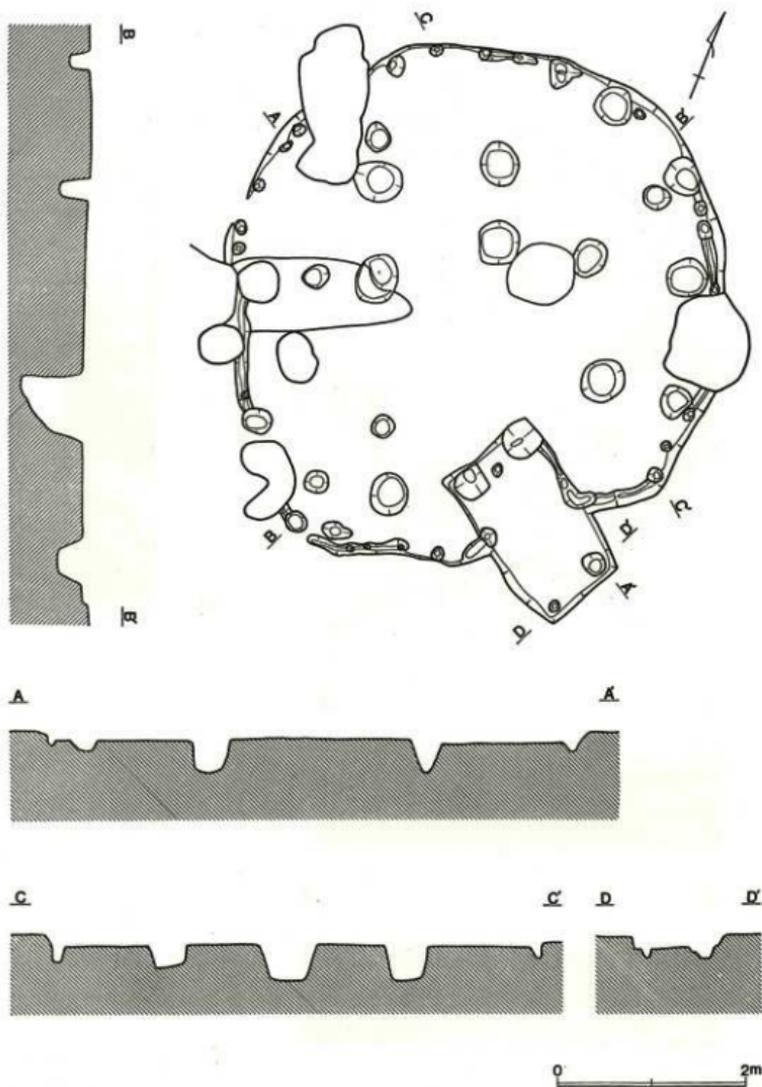
第14图 第13号住居跡



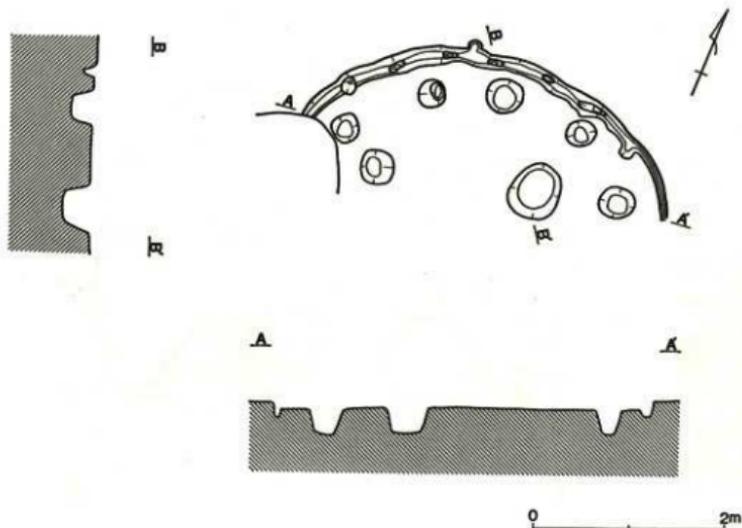
第15圖 第14号住居跡



第16图 第15号住居跡



第17图 第16号住居跡



第18図 第18号住居跡

に廻るものが主柱穴と思われる。壁溝は検出されず、壁孔は荒い間隔で配される。入口部は検出されず、炉址も確認できなかった。

#### 第16号住居跡（第17図）

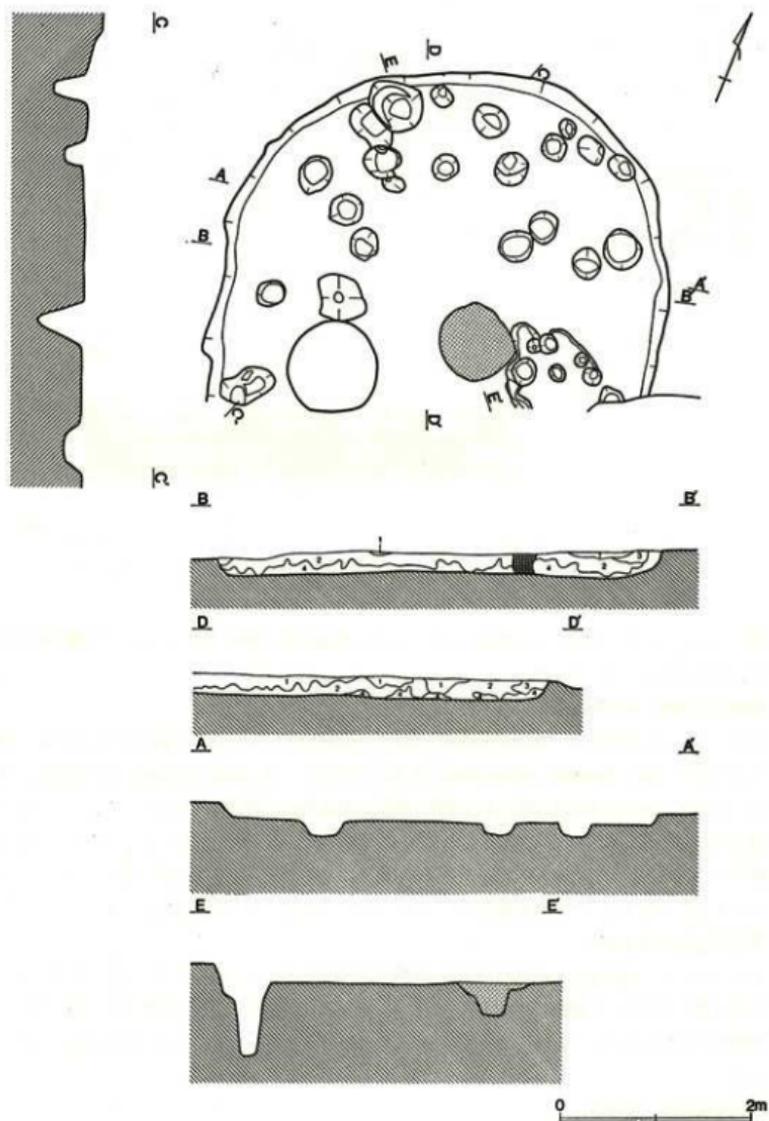
9B・9C区に位置する。第14号住居跡、第37号土壌に切られている。主軸方向 N-55°-W。掘り込みは浅く、覆土は褐色系、床面は軟弱である。住居プランは、直径—5.50m前後の略円形を呈する。柱穴は、西側が不明確であるが、円形に廻る6本柱穴が主柱穴と思われる。小柱穴は、壁と主柱穴の間に確認されたが、西側が不明瞭であった。壁溝は、部分的に検出され、全周する壁孔と連動する。入口部は、南東側に位置する。壁外に張り出しを有し、住居内は浅く掘り込まれ全体として長方形を呈する。張り出し部及び住居内に対ビットを有する。炉址は検出されなかった。

#### 第18号住居跡（第18図）

13C~14C区に位置する。南側の大部分が道路下で未調査である。掘り込みは浅く、覆土は褐色で床面は軟弱である。住居跡の規模は不明である。主柱穴は明瞭でないが、壁と主柱穴間に小柱穴が規則的に配列されている。壁溝と壁孔は連動しつつ現状で全周する。入口部、炉址は確認されなかった。

#### 第19号住居跡（第19図）

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 Y R 3/1 黒褐色	



第19圖 第19号住居跡

2	Hue 7.5 Y R 3/2	黒褐色	ローム粒子 (少)
3	Hue 7.5 Y R 4/4	褐色	ローム粒子 (少)
4	Hue 7.5 Y R 5/6	明褐色	ローム粒子 (少)

14C区に位置する。南半部が道路下で未調査である。第45号土壌に切られる。主軸方向 N-69°-W。直径—5.00m前後の略円形を呈するものと思われる。掘り込みは、0.20m前後と他の住居跡に比較して深く、壁の立ち上がりはゆるやかである。床面は、比較的硬く覆土は黒褐色系である。柱穴は、小柱穴が比較的多く検出され、主柱穴が明確でないが住居プランに沿って円形に廻るものと思われる。壁溝、壁孔は検出されていない。入口部は、かなり不明瞭であるが、南東部に位置するものと思われる。長方形の浅い掘り込みを有し、浅い対ビットを有している。炉址は、中央部に位置し、直径—0.60m前後の円形プランを有する。焼土の堆積、ロームの焼け具合も良好である。

#### 第20号住居跡 (第20図)

13B~14B、13C~14B区にまたがって位置する。南側を近世SXに、第41号土壌、第44号土壌、第47号土壌に切られる。近世期の削平によって床面まで攪乱されている。主軸方向 N-67°-W。長径—5.40m、短径—4.40m前後の楕円形プランを呈する。主柱穴は明瞭でないが、円形に廻るものと思われる。壁溝は部分的であるが、壁孔は南東側を除いてほぼ全周する。入口部は、南東部に位置するものと思われる。溝状の区画がわずかに残存し、対ビット的なものが配される。炉址は、中央部に位置する。削平されているため非常に薄い。

#### 第21号住居跡 (第21図)

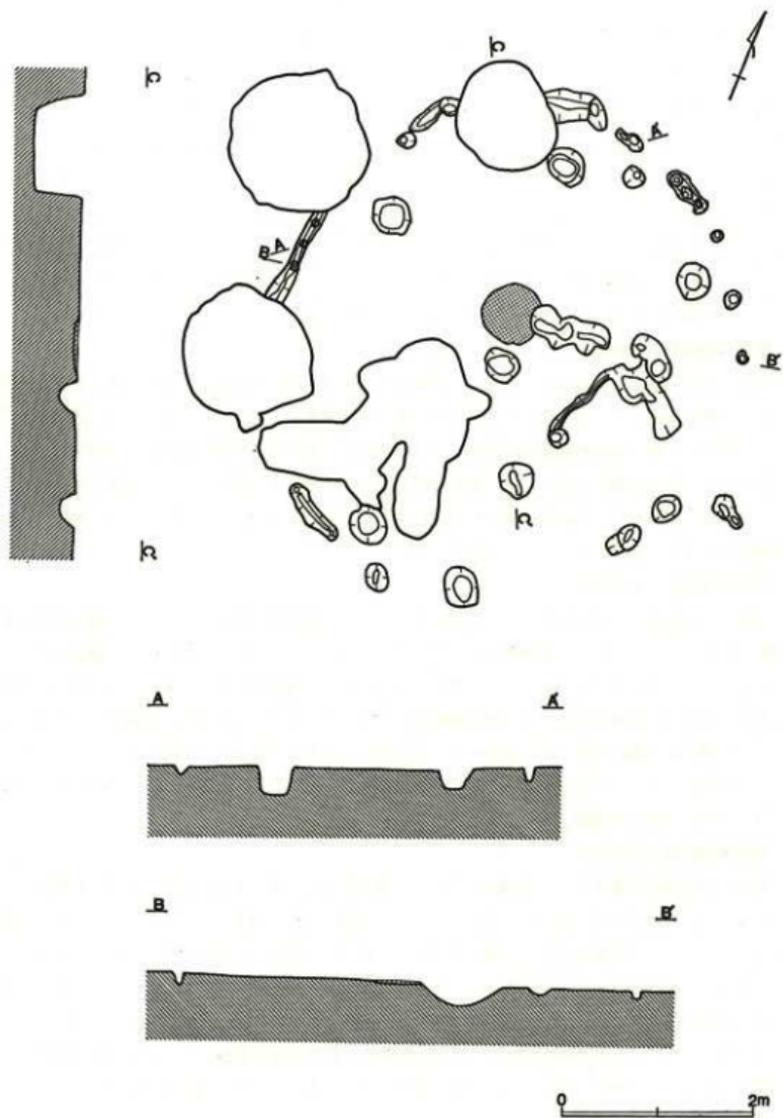
14C区に位置する。近世SXにかなり切られている。第22号住居跡より新しい。主軸方向 N-69°-W。住居プランは、直径—4.40m前後の円形を呈するものと思われる。柱穴は多く検出されているが、壁下に円形に廻るものが主柱穴と思われる。他に中央部西側に柱穴が見られるが性格は不明である。壁溝は、西側で散見される他は検出されなかった。壁孔も全周するが間隔はかなり疎である。入口部は南東側に位置する。壁外の張り出しはほとんどなく壁内に2ヶ所の溝状ビットが配され、中央部に対ビットが見られる。炉址は、中央部から北に片寄って位置する。0.60m前後の円形プランを有し、焼土の堆積、ロームの焼け具合等良好であった。

#### 第22号住居跡 (第22図)

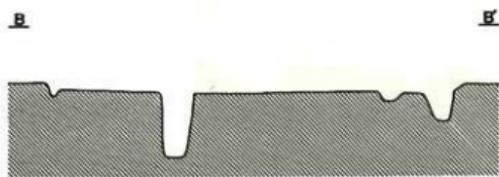
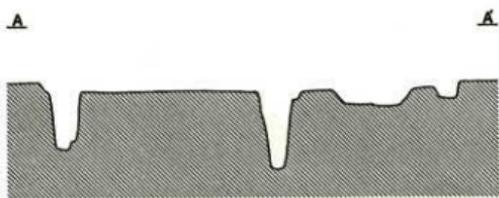
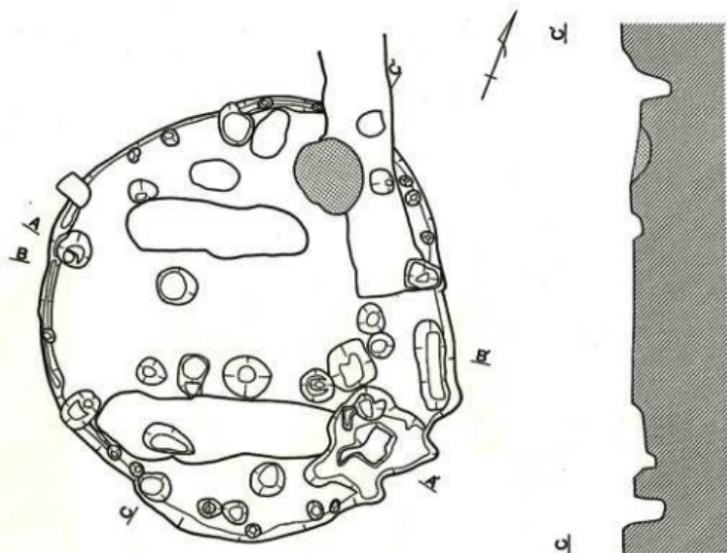
14B~14C区に位置する。中央部を近世SX、及び第41号土壌、第53号土壌、第21号住居跡に切られている。主軸方向 N-63°-W。住居プランは、5.10m前後の円形を呈するものと思われる。掘り込みは浅く、床面は軟弱で覆土は褐色系である。柱穴は、直径—0.30m前後の比較的小径のもので、明瞭さに欠けるが、住居プランに沿って円形に廻るものが主柱穴と思われる。壁溝は部分的であり、壁孔は検出されなかった。入口部は東側に位置する。壁外の張り出し、掘り込み等は認められず、対ビットによってのみ構成されている。炉址は、ほぼ中央に位置する。直径—0.80m前後の円形を呈する。一部攪乱に切られているが、焼土の堆積、ロームの焼け具合等良好であった。

#### 第23号住居跡 (第23図)

近世SX、第46号土壌に切られる。削平が激しく、全体として明瞭でない。主軸方向 N-77°-W。床面は軟弱である。柱穴は、かなり不規則であるが中央部に円形に廻るものが主柱穴と思われる。

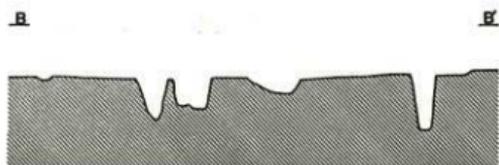
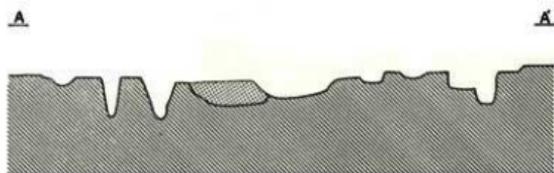
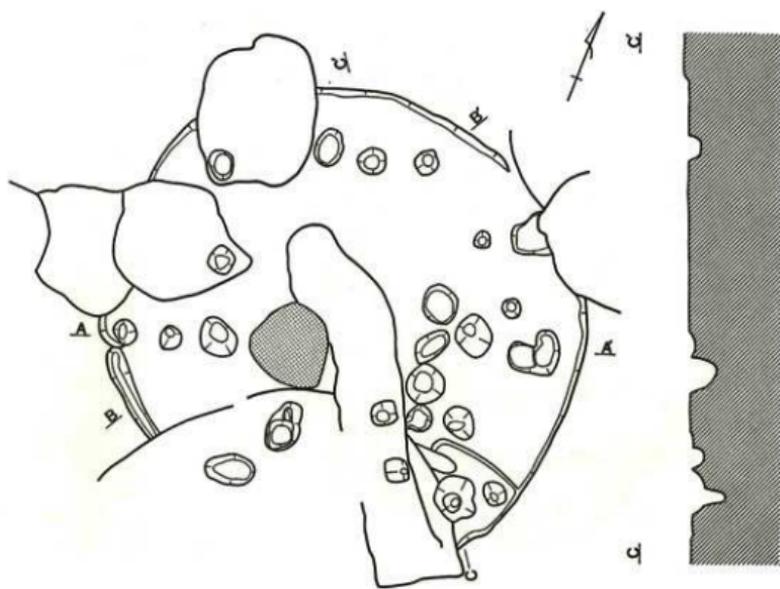


第20图 第20号住居跡



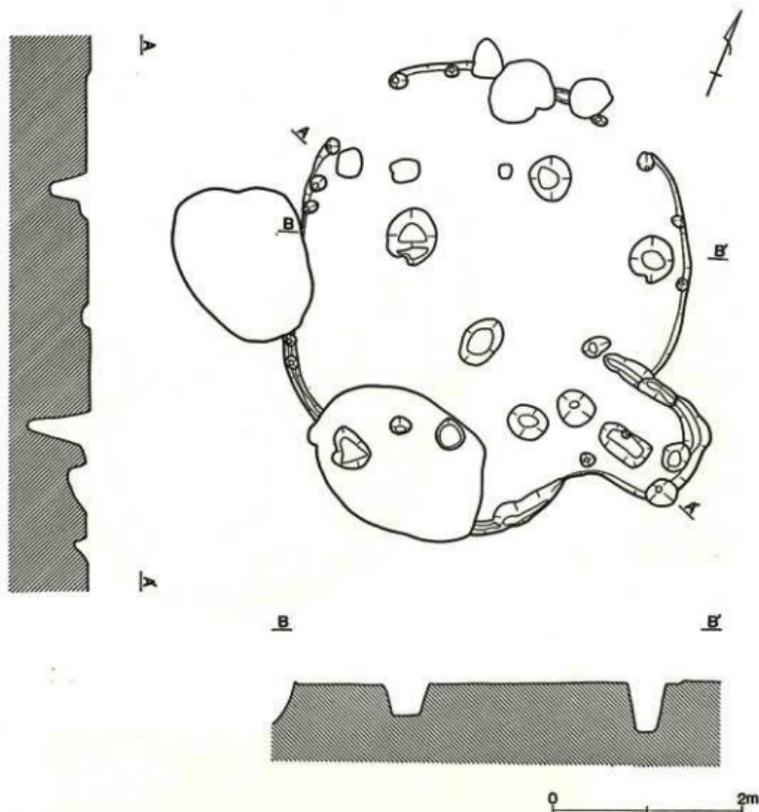
0 2m

第21图 第21号住居跡



0 2m

第22图 第22号住居跡

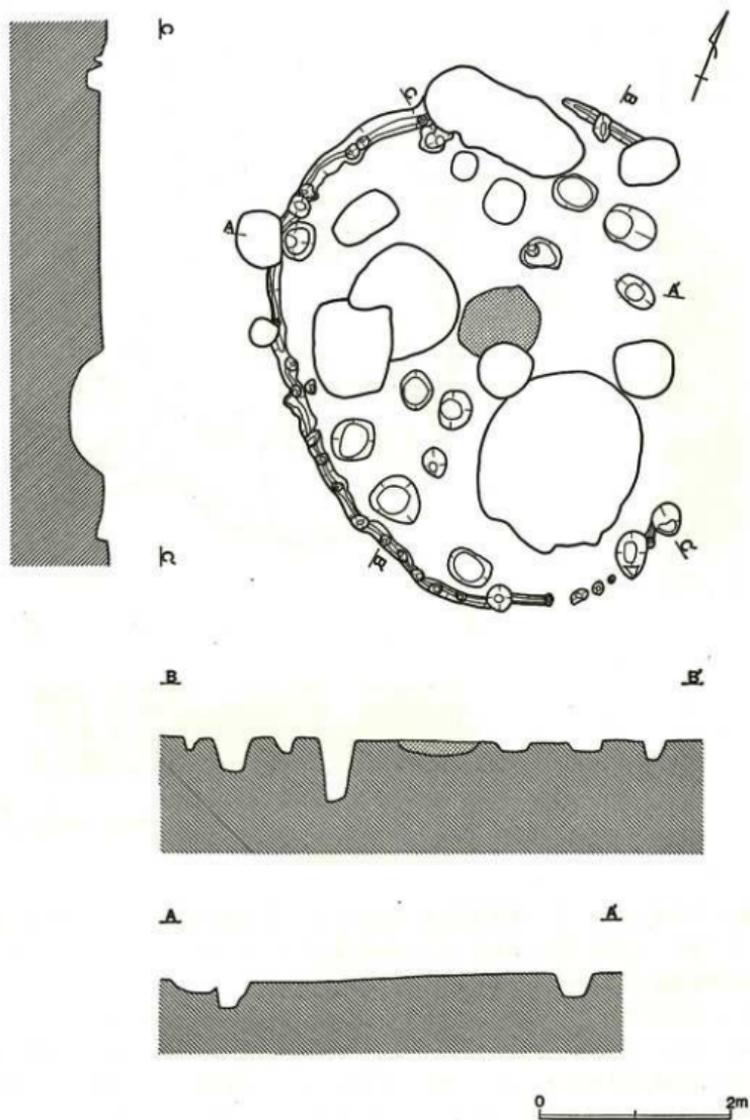


第23図 第23号住居跡

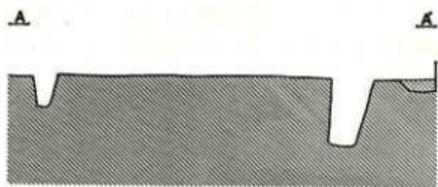
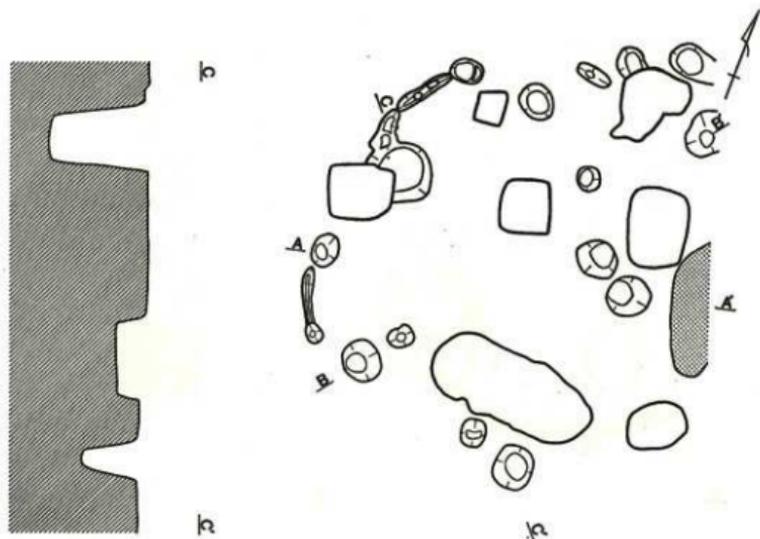
壁溝は、南西側に認められ、壁孔は間隔が荒いが全周する。入口部は、壁溝をともなって壁外に張り出す。壁外、住居内に対ビットが配される。炉址は確認されなかった。

#### 第24号住居跡 (第24図)

14B・15B区に位置する。北側をSX及びⅡ・SB2に、第40号土壇、第56号土壇に切られる。第25号住居跡より新しい。主軸方向N-59°-W。東側の一部は調査区外である。長径-5.50m、短径-4.50m前後の楕円形を呈するものと思われる。柱穴は、かなり不規則であるが壁に沿って楕円形に廻るものが主柱穴と思われる。壁溝、及び壁孔は連動しつつ全周する。入口部は確認できない。炉址は、中央部に位置し、直径-0.80m前後の円形を呈する。掘り込みは浅く、焼土の堆積も薄い。

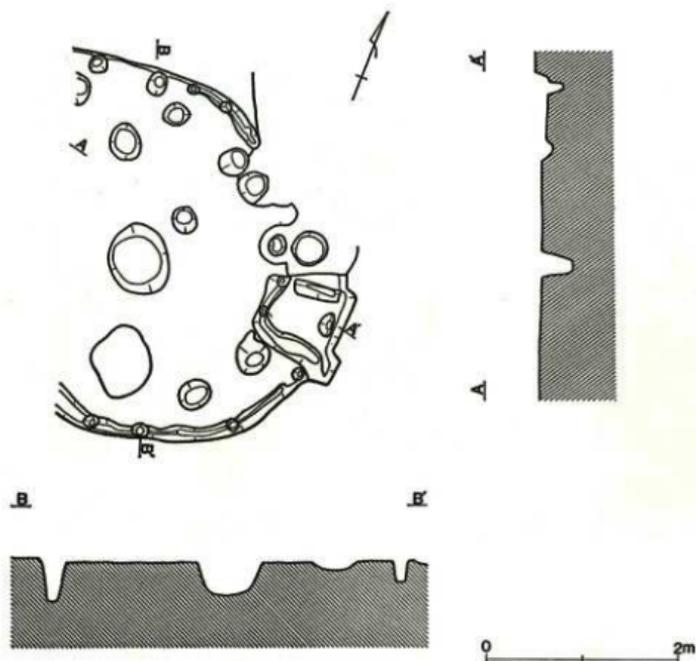


第24图 第24号住居跡



0 2m

第25图 第25号住居跡



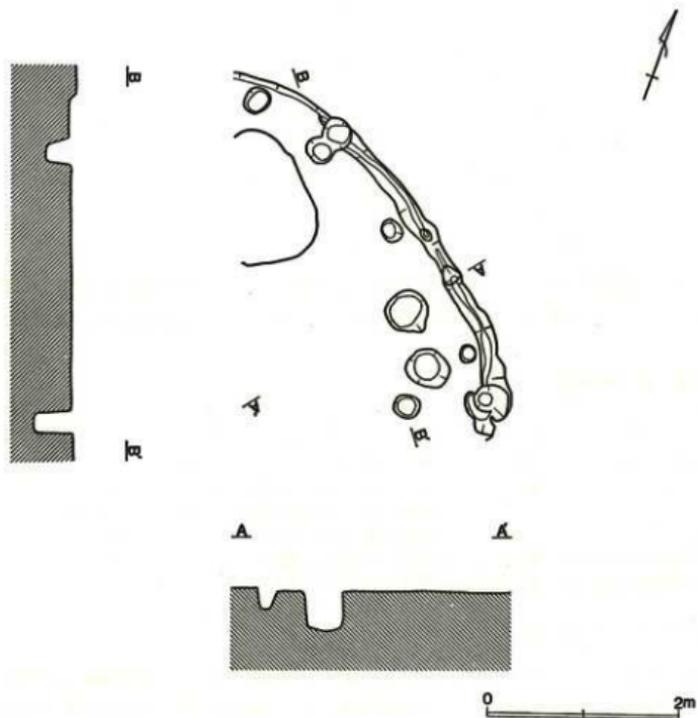
第26図 第26号住居跡

**第25号住居跡 (第25図)**

15B区に位置する。近世SX、Ⅰ・SA2に切られる。南東側の大部分は調査区外である。全面が削平され、覆土等は不明。柱穴は、壁に沿って楕円形に廻るものが主柱穴と思われる。壁溝、壁孔は西側にわずかに確認されただけである。入口部は確認されなかった。炉址は、中央部より東側に片寄って位置する。一部は調査区外であるが、径1.20m前後の大型のものと思われる。掘り込みは浅く、焼土の堆積状況もあまり良くない。

**第26号住居跡 (第26図)**

15C—15D区に位置する。北東側を近世SXに切られる。西側の大部分は調査区外である。主軸方向N-88°-W。掘り込みは浅く、覆土は褐色系で床面は軟弱である。壁に沿って廻るものが主柱穴と思われる。壁溝は、壁孔と連動しつつほぼ全周する。入口部は、壁外にわずかに張り出し、溝で台形状に区画される。炉址は検出されなかったが、中央部の浅いピットが炉址の位置である。



第27図 第27号住居跡

第27号住居跡（第27図）

14C—14D区に位置する。第54号土壌に切られている。大部分が調査区外で、規模等は不明であるが、たぶん楕円形プランを呈するものと思われる。掘り込みは浅く、床面は軟弱である。壁側に配されるものが主柱穴と思われる。壁溝、壁孔が配されるが、壁孔は球である。炉址、入口部は確認できなかった。

## 1-2 土 壌

## 第1号土壌 (第28図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)
2		ローム粒子 (少)、1に比して明るい。
3		ローム粒子 (極少)
4	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ロームブロック (少)、ローム粒子 (少)
5	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ローム粒子 (少)

第1号住居跡南側、8C区に位置する。長径—1.52m、短径—1.20mの楕円形を呈する。掘り込みはきわめて浅く、北側に小ピットを有する。覆土は、褐色系であり、遺物はほとんど認められない。

## 第2号土壌 (第28図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (中)、ローム小ブロック (極少)
2	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ローム粒子 (少)、カーボン粒子 (少)
3		ローム粒子 (少)、カーボン粒子 (少)、ロームブロック (少)
4		ローム粒子 (少)、カーボン粒子 (少)、2より明るい。
5	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ロームブロック (多)、褐色ブロック (少)
6	Hue 10 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)
7		ローム粒子 (少)、ロームブロック (中)
8	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)

8B区に位置する。長径—2.75m、短径—1.70mの長楕円形を呈する。東西両端で1段浅く掘り込まれ、中央部で円形に深くなる。深さ0.70m前後である。第5号土壌、第27号土壌に共通する形状である。覆土は、暗褐色系でカーボン粒子を含むが、遺物は少ない。

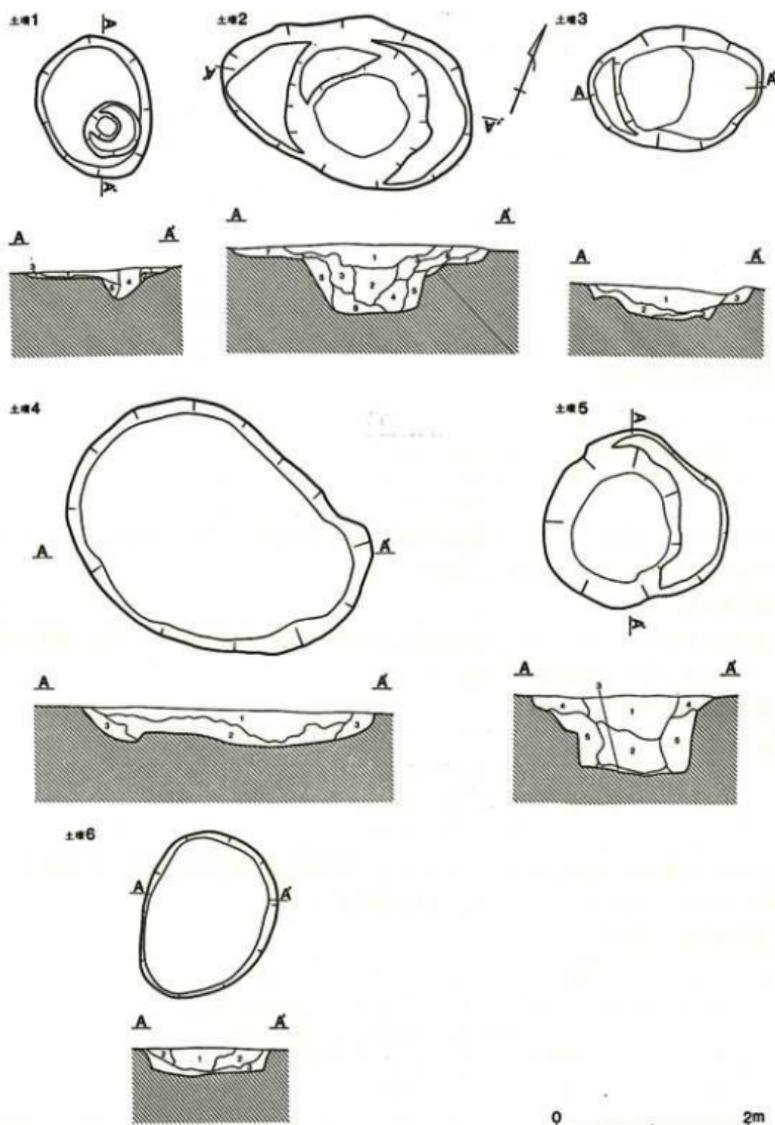
## 第3号土壌 (第28図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ローム粒子 (少)、ローム小ブロック (少)
2		ローム粒子 (少)、ロームブロック (中)
3	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ロームブロック (多)

8B区に位置する。長径—1.85m、短径—1.32mの楕円形を呈する。両端が浅く、中央部が0.30mと比較的深い。覆土は、褐色系で遺物は少ない。

## 第4号土壌 (第28図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)
2	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ローム小ブロック (多)
3		ローム粒子 (少)、ローム小ブロック (少)



第28图 土壤(1) 第1号~6号土壤

8B～9B区に位置する。長径—3.22m、短径—2.26mのかなり大型の楕円形を呈する。掘り込みは浅く底面はフラットである。覆土は、褐色系であり、遺物は少ない。

第5号土壌 (第28図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/3 暗褐色	ローム粒子 (少)、ローム小ブロック (少)、ロームブロック (極少)、 カーボン粒子 (少)
2		ローム粒子 (中)、カーボン粒子 (少)、焼土粒子 (少)
3		ロームブロック (少)、ローム粒子 (中)、カーボン粒子 (少)
4	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ロームブロック (少)
5	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ロームブロック (多)

9B～9C区に位置する。1.92m前後の円形を呈する。東側に若干の段を有し、西側で円形状に0.82mほど深くなる。覆土は、暗褐色系でカーボン粒子を含む。遺物も多く出土する。

第6号土壌 (第28図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ローム粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)
3		ローム粒子 (少)、ロームブロック (中)

8C～9C区に位置する。長径—1.80m、短径—1.40mの楕円形を呈する。底面は、フラットであり掘り込みは浅い。覆土は、褐色系で遺物は少ない。

第7号土壌

10C区に位置する。ロームブロックが中央部に認められる所謂「風倒木痕」で、周囲の遺構を切っているため、遺物も比較的認められる。図示はしない。

第9号土壌 (第29図)

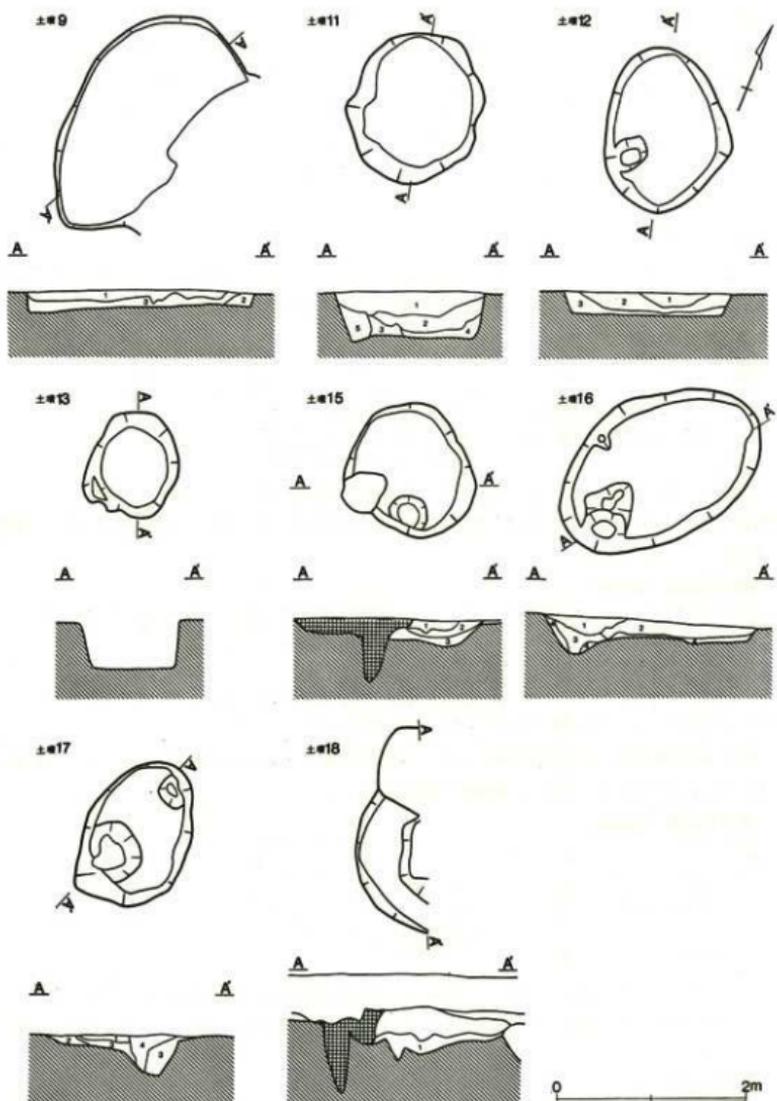
層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ロームブロック (少)、ローム粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ロームブロック (多)
3		ロームブロック (少)

10C区に位置する。第7号土壌に切られる。長径—2.73m前後の楕円形を呈するものと思われる。掘り込みは浅く、底面はフラットである。覆土は褐色系で遺物は少ない。

第11号土壌 (第29図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)、ローム小ブロック (少)、ロームブロック (少)
2		ローム粒子 (中)、カーボン粒子 (少)
3	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (少)、カーボン粒子 (少)
4		ローム粒子 (少)
5	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ロームブロック (多)

10C区に位置する。第6号、第8号住居跡、第12号土壌に接する。長径—1.65m、短径—1.45m前後の楕円形を呈する。深さ—0.50m前後で、遺物も比較的多く含む。覆土は暗褐色系でカーボン粒子を含んでいる。



第29图 土瓿(2) 第9号、第11号~13号、第15号~18号土瓿

第12号土壌 (第29図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 5/6 明褐色	ロームブロック (少)
2	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ローム粒子、ロームブロック (少)
3		ロームブロック (多)

10C区に位置する。第6号住居跡より新しい。長径—1.79m、短径—1.22mの楕円形である。深さは、0.25mと浅く、覆土は褐色系、遺物は少ない。

第13号土壌 (第29図)

9D区に位置する。第4号住居跡より新しい。長径—1.13m、短径—1.00mの楕円形のプランを呈する。覆土は、暗褐色系で焼土粒子を若干混じる。遺物の出土も比較的多い。

第15号土壌 (第29図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)
2	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)
3		ローム粒子 (少)、ロームブロック (中)

10B区に位置する。長径—1.45m、短径—1.40mの不整形形を呈する。西側をSA1のピットに攪乱されている。深さは、0.22mと浅く南側に小ピットを有する。覆土は、暗褐色系であるが遺物は少ない。

第16号土壌 (第29図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)
3		ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)
4	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ロームブロック (中)

10B区に位置する。長径—2.35m、短径—1.56mの楕円形を呈する。底面は、フラットで西側に浅い小ピットを有する。覆土は、暗褐色で遺物は少ない。

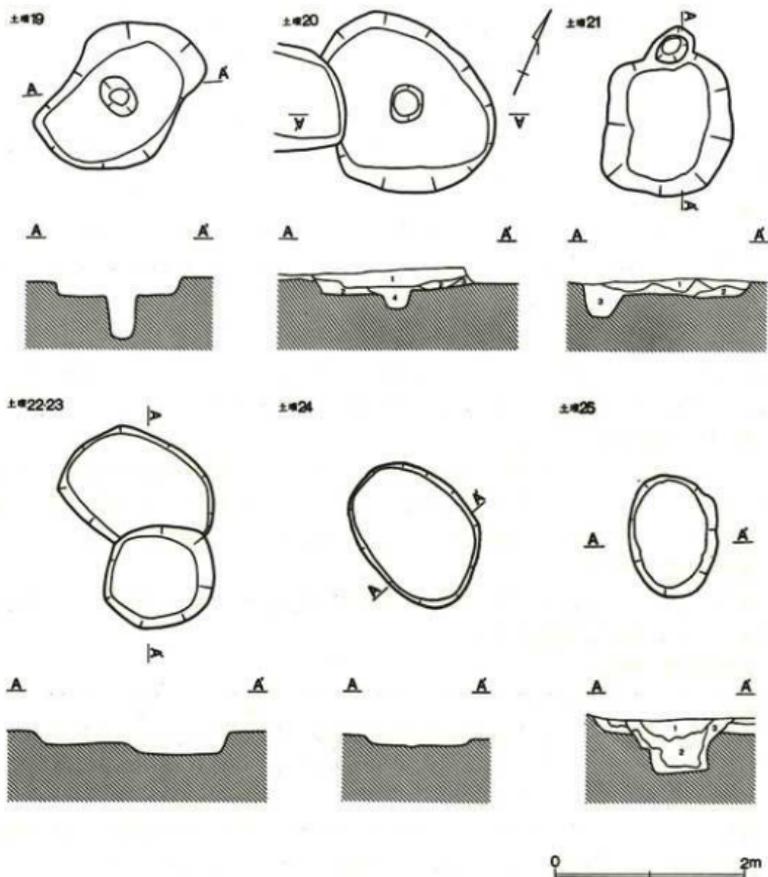
第17号土壌 (第29図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue10 YR 4/6 褐色	ローム粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)
3		ローム粒子 (少)、ロームブロック (中)
4	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)

10C区に位置する。長径—1.68m、短径—1.20mの楕円形を呈する。北側、及び南側に小ピットを有する。底面は、南側ピットに向ってわずかに傾斜する。浅い掘り込みで、覆土は褐色系、遺物は少ない。

第18号土壌 (第29図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)



第30図土坑(3) 第19号~25号土坑

9 B区に位置する。東側が調査区外で規模は不明。第3号住居跡、第15号住居跡より新しい。壁下に浅い段を有し、中央部が窪む。覆土は、褐色系であり、遺物も少ない。

第19号土坑(第30図)

10C区に位置する。長径1.88m、短径1.29mの楕円形を呈する。浅い掘り込みであり、中央部に小ピットを有する。覆土は、褐色系であり遺物も少ない。

第20号土坑(第30図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)
2	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (中)
3		ロームブロック (多)
4	Hue 10 YR 4/6 褐色	ロームブロック (少)

9 B区に位置する。長径—2.03m、短径—1.72mの略円形を呈する。掘り込みは、浅く、中央部に浅いピットを有する。覆土は、褐色系で遺物は少ない。

#### 第21号土壌 (第30図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)
2	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ローム粒子 (多)
3		ロームブロック (多)、カーボン粒子 (少)

11C区に位置する。長径—1.84m、短径—1.35mの楕円形を呈する。深さ—0.20m前後と浅く、底面は、フラットで東側端部に小ピットを有する。覆土は、褐色系で遺物は少ない。

#### 第22号、第23号土壌 (第30図)

11C区に位置する。第22号土壌は、長径—1.16m、短径—1.11mの略円形を呈する。深さ—0.22mで第23号土壌より深い。第23号土壌は、長径—1.65m、短径—1.25mの楕円形を呈し、掘り込みは浅い。覆土は、第22号土壌が暗褐色系、第23号土壌は褐色系でともに遺物は少ない。

#### 第24号土壌 (第30図)

12C区に位置する。長径—1.57m、短径—1.20mの楕円形を呈する。掘り込みは、きわめて浅く遺物は少ない。覆土は、褐色系である

#### 第25号土壌 (第30図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (少)、褐色ブロック (少)、カーボン粒子 (少)
2		ローム粒子 (少)、ロームブロック (極少)、カーボン粒子 (少)
3	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ロームブロック (少)

9 D区に位置する。長径—1.33m、短径—0.94mの楕円形を呈する。深さ—0.58mと比較的深い。第2号住居跡を切って構築されている。覆土は、暗褐色でカーボン粒子を含むが遺物は少ない。

#### 第26号土壌 (第31図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (少)、カーボン粒子 (少)
2		ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)、カーボン粒子 (少)
3		ローム粒子 (多)、ロームブロック (少)、カーボン粒子 (少)
4	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (多)、ロームブロック (多)、カーボン粒子 (多)
5	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ロームブロック (多)、カーボン粒子 (少)
6	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)
7		ロームブロック (少)
8	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ロームブロック (多)

10B～11B区に位置する。長径—2.14m、短径—1.67mの楕円形を呈する。壁下で1段浅く掘り込まれ、中央部で2.25mと非常に深く掘り込まれている。覆土は、上層が暗褐色、下位に従って褐色でロームブロックを多く混じる。遺物は、上層から出土している。

#### 第27号土壌 (第31図)

10C区に位置する。長径—2.59m、短径—2.22mの不整楕円形を呈する。深さは、0.92mであり、壁下付近で1段浅く掘り込まれ、西側ではほぼ円形に深くなる。覆土は、暗褐色系であり、カーボン粒子を含む。1～4層を中心に遺物が多く出土している。第6号住居跡と近接するが、新旧関係は不明である。

#### 第28号土壌 (第31図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (多)、カーボン粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (多)、ロームブロック (少)、カーボン粒子 (少)

9B区に位置する。東側は、調査区外である。第6号住居跡より新しく、第18号土壌より古い。規模は不明であるが、楕円形状のプランを呈するものと思われる。覆土は、暗褐色系でカーボン粒子を含む。遺物は少ない。

#### 第29号土壌 (第31図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (中)、褐色軟質ブロック (少)
2		ローム粒子 (多)、ローム小ブロック (中)、カーボン粒子 (少)
3		ローム粒子 (少)
4	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ロームブロック (少)
5	Hue 7.5 YR 3/3暗赤褐色	焼土粒子 (多)、カーボン粒子 (多)、焼けたロームブロック (多)

11B区、第13号住居跡内に位置する。第13号住居跡より新しい。直径—1.50m前後の円形を呈する。覆土は、暗褐色系で全体に焼土粒子、カーボン粒子が含まれ、5層は、焼土層である。遺物は、上層に多く認められる。

#### 第30号土壌 (第31図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子
2		
3	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	

12C区、第11号住居跡内に位置する。第11号住居跡より新しい。長径—1.65m、短径—1.57mの略円形を呈する。床面より0.45mの深さを有し、暗褐色土系の覆土を有する。床面はフラットで中央部に小ピットを有する。遺物は少ない。

#### 第31号土壌 (第31図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/3 暗褐色	軟質褐色ブロック (多)、ローム粒子 (少)、ロームブロック (極少)
2		軟質褐色ブロック (少)、ローム粒子 (中)

3	Hue 7.5 YR 4/4	褐色	ロームブロック (少)
4	Hue 7.5 YR 4/3	褐色	ロームブロック (多)
5	Hue 7.5 YR 4/3	暗褐色	ロームブロック (多)

11C区、第12号住居跡内に位置する。第12号住居跡より新しい。長径—1.83m、短径—1.40mの楕円形を呈する。壁下に1段浅い掘り込みがあり、中央部が深さ—0.70m前後に深くなる。覆土は、暗褐色系で遺物は少ない。

第33号土壌 (第32図)

層位	色	調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/4	褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)
2	Hue 7.5 YR 4/6	褐色	ロームブロック (少)、ローム粒子 (少)

11C区に位置する。第13号住居跡より新しい。直径—1.50m前後の略円形を呈する。掘り込みはきわめて浅く、覆土は褐色系で遺物は少ない。

第34号土壌 (第32図)

層位	色	調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/3	褐色	ロームブロック (少)、ローム粒子 (多)
2	Hue 7.5 YR 4/4	褐色	ロームブロック (少)、ローム小ブロック (中)、ローム粒子 (少)

11C区に位置する。第13号住居跡より古い。直径—1.10m前後の略円形を呈する。掘り込みは浅く、覆土は褐色系、遺物は少ない。

第35号土壌 (第32図)

層位	色	調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/4	褐色	ローム粒子(多)、カーボン粒子(多)、ロームブロック(少)、焼土粒子(中)
2			ローム粒子(多)、カーボン粒子(多)、ロームブロック(中)、焼土粒子(少)
3			ローム粒子(多)、カーボン粒子(少)、ロームブロック(多)、焼土粒子(極少)
4	Hue 7.5 YR 4/6	褐色	ロームブロック(多)

9C区に位置する。近世SXに切られ、第3号住居跡より新しい。直径—1.15m前後の隅丸方形状を呈する。掘り込みは、0.45m前後、覆土は褐色系であるが、かなりの焼土粒子、焼けたロームブロックを含んでいる。遺物は少ない。

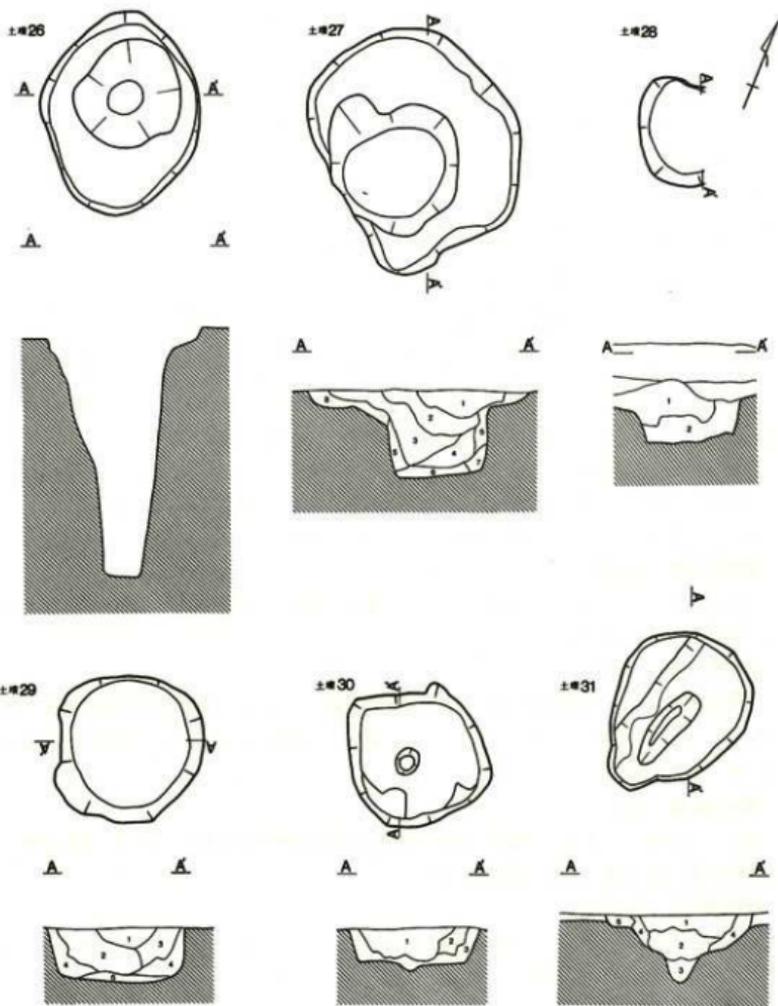
第36号土壌 (第32図)

層位	色	調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4	暗褐色	ローム粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 4/4	褐色	ロームブロック

10C区に位置する。長径—1.68m、短径—1.55mの楕円形を呈する。掘り込みはきわめて浅く、東側に浅い小ピットが2ヶ所配される。覆土は、褐色系で遺物は少ない。

第37号土壌 (第32図)

層位	色	調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/3	暗褐色	ローム粒子 (少)、褐色小ブロック (少)



第31图 土壤(4) 第26号~31号土壤

2	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ロームブロック (少)、ローム粒子 (少)
3	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ロームブロック (多)

9 B区に位置する。第16号住居跡より新しい。長径—1.12m、短径—0.87mの楕円形を呈する。北側で段を有し、南側で円形に掘り込まれる。覆土は、暗褐色系であるが遺物は少ない。

第38号土壌 (第32図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 5 YR 3/2 暗褐色	カーボン粒子 (少)、焼土粒子 (中)
2		カーボン粒子 (多)、焼土粒子 (多)
3	Hue 2.5 YR 5/8 暗赤褐色	焼土層
4	Hue 5 YR 3/3 暗赤褐色	カーボン粒子 (多)、焼土粒子 (多)、焼土ブロック (多)
5	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	焼土粒子 (少)、ロームブロック (少)、カーボン粒子 (少)、ローム粒子 (少)
6	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (少)

12C区に位置する。I・SD 1に上半部が削平されている。直径—1.00m前後の円形プランを呈する。底部付近で若干オーバーハングし、袋状を呈する。覆土は暗褐色系で、3、4層に焼土が大量に混入し、レンズ状に堆積する。焼土層中より大量の土器小破片が出土している。

第39号土壌 (第32図)

14C区に位置する。直径—1.20m前後の円形プランを呈する土壌が東西に3個連なる。新旧関係は明らかにできなかった。東側が1.40mとかなり深い遺物は少ない。

第40号土壌 (第32図)

14B区に位置する。第24号住居跡より新しい。長径—1.90m、短径—1.60m前後の略円形を呈する。深さ—0.40m前後で遺物は少ない。

第41号土壌 (第33図)

14B区に位置する。第20号住居跡との新旧関係は不明。プランは、直径—約1.50mの円形を呈する。深さ—約0.50mでかなりしっかりしている。覆土は、暗褐色でカーボン粒子を含む。復元可能な土器が1個体分出土している。

第42号土壌 (第33図)

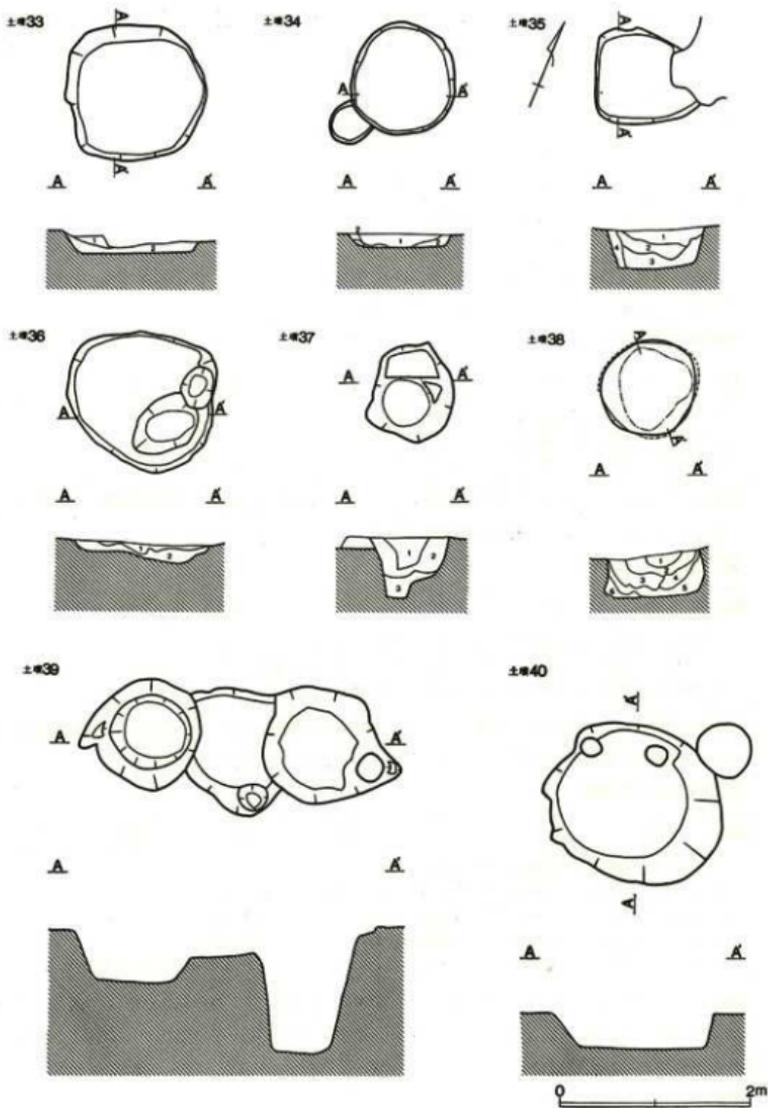
14C区に位置する。長径—1.20m、短径—1.00m前後の略円形を呈する。深さは、約1.20mであり比較的深い掘り込みである。遺物は少ない。

第43号土壌 (第33図)

14C区に位置する。長径—1.90m、短径—1.65mの楕円形を呈する。深さは、0.25m前後と浅く、西側に小ピットを有する。遺物は少ない。

第44号土壌 (第33図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (多)、ローム (少)、ブロック (少)
2		ローム粒子 (多)、ロームブロック (少)、ローム (少)、ブロック (中)
3	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)、カーボン粒子 (少)
4		ロームブロック (多)
5		ローム粒子 (少)、カーボン粒子 (少)



第32图 土壙 (5) 第33号~40号土壙

14B区に位置する。第20号住居跡より新しい。長径—1.13m、短径—1.12mの略円形を呈する。東側底部付近でオーバハングし、袋状を呈する。覆土は、暗褐色系でカーボン粒子を含む。遺物も比較的多く出土している。

第45号土壌 (第33図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/2 黒褐色	カーボン粒子
2	Hue 7.5 YR 5/6 明褐色	ローム質
3	Hue 7.5 YR 3/1 黒褐色	

14C区に位置する。第19号住居跡より新しい。直径—1.05m前後の円形を呈する。深さ—0.50mであり覆土は暗褐色系でカーボン粒子を含む。遺物は少ない。

第46号土壌 (第33図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ロームブロック
3	Hue 7.5 YR 褐色	ロームブロック

14B区に位置する。第23号住居跡より新しい。長径—2.20m、短径—1.50m前後の楕円形を呈する。掘り込みは浅く、覆土は褐色系で遺物は少ない。

第47号土壌 (第33図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (多)、カーボン粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ローム粒子 (多)、カーボン粒子 (少)
3	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ロームブロック (少)

13B区に位置する。西側上面を攪乱される。第20号住居跡より新しい。直径—1.40m前後の円形プランを呈する。覆土は、暗褐色系でカーボン粒子を含むが、遺物は少ない。

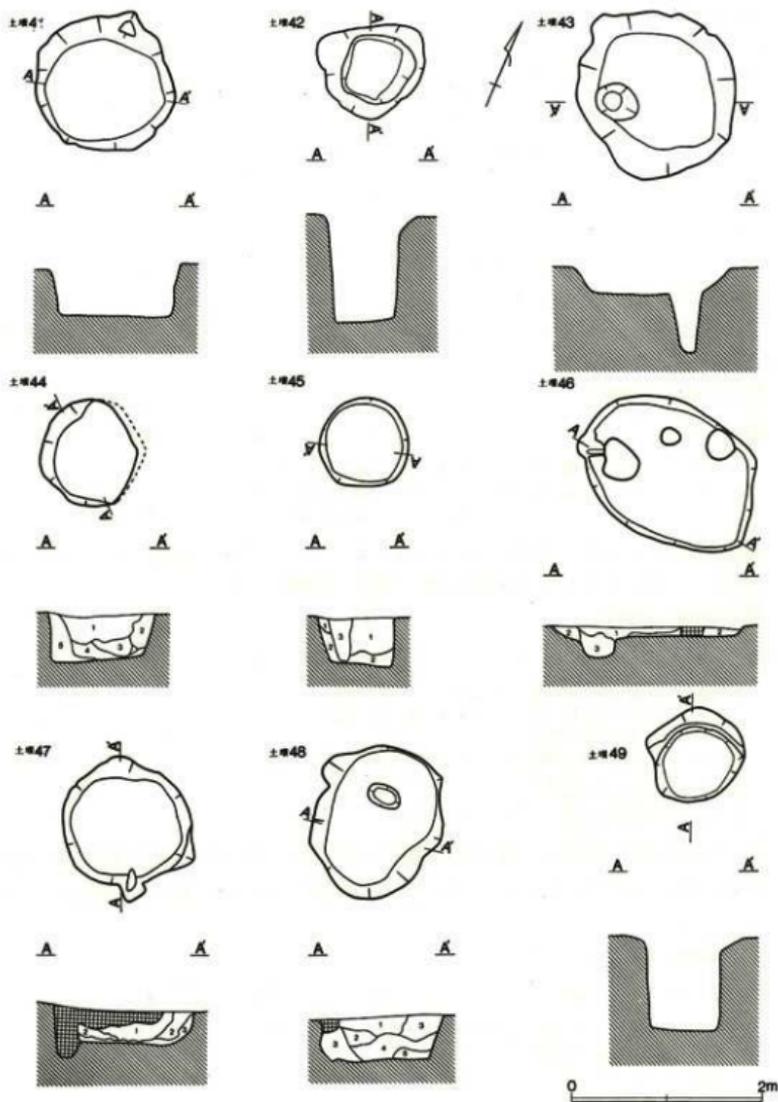
第48号土壌 (第33図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/3 暗褐色	ローム粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 3/3 暗褐色	ローム粒子 (少)、褐色ブロック (少)
3	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (中)、ロームブロック (多)
4	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (中)、ロームブロック (多)
5	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)、カーボン粒子 (少)

15C区に位置する。長径—1.70m、短径—1.40mの楕円形を呈する。深さ—0.50m前後で北側に小ピットを配する。覆土は、暗褐色系でカーボン粒子を含み堆積が不自然である。同一個体片が遺物の大部分である点も特徴である。

第49号土壌 (第33図)

14C区に位置する。北半分を近世SXに削平される。直径—1.00m前後の円形プランを呈する。深さは、約1.00で覆土は褐色系、遺物は少ない。



第33图 土壤(6) 第41号~49号土壤

第50号土壌 (第34図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	焼土粒子 (少)、カーボン粒子 (少)、ローム粒子 (少)
2		ローム粒子 (少)
3	Hue 7.5 YR 3/3 暗褐色	ローム粒子 (中)
4		ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)
5		ローム粒子 (極少)
6	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ロームブロック (多)

14D区に位置する。北側上層部分を近世SXに削平される。長径—1.30m、短径—1.10mの楕円形を呈する。深さは、0.50m前後で覆土は暗褐色系でカーボン粒子を含む。遺物は少ない。

第51号土壌 (第34図)

14D区に位置する。長径—1.35m、短径—1.20mの楕円形を呈する。掘り込みは浅く、覆土は褐色系で遺物は少ない。

第52号土壌 (第34図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ローム粒子 (少)、褐色ブロック (少)
2	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子 (少)、褐色ブロック (中)
3		ローム粒子 (少)、褐色ブロック (少)、ロームブロック (少)

15C区に位置する。西側、南側、中央部に近世の攪乱が入る。長径—1.40m、短径—1.00m前後の楕円形を呈する。深さは、1.35m前後、覆土は褐色系で遺物は少ない。

第53号土壌 (第34図)

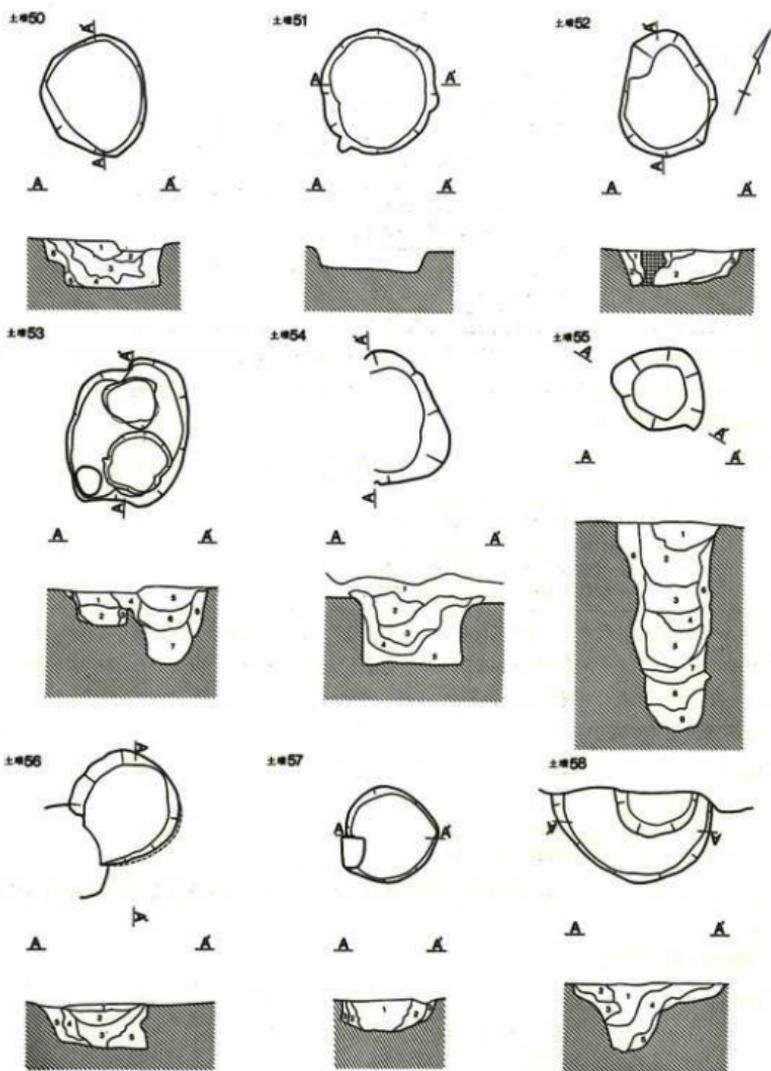
層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 6/6 橙 色	ローム粒子、カーボン粒子
2	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	ローム粒子、カーボン粒子
3	Hue 7.5 YR 5/4鈍い褐色	
4	Hue 7.5 YR 5/4鈍い褐色	ローム粒子、カーボン粒子
5	Hue 7.5 YR 5/6 明褐色	ローム粒子、カーボン粒子
6	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	
7	Hue 7.5 YR 6/6 橙 色	ロームブロック

14C区に位置する。第22号住居跡を切って構築される。長径—1.60m、短径—1.30m前後の楕円形を呈する。2ヶ所のビット状の掘り込みがあり多くの遺物が出土する。覆土は、暗褐色系でカーボン粒子を含む。

第54号土壌 (第34図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 5/8 暗褐色	第26号住居跡、覆土
2	Hue 7.5 YR 3/3 暗褐色	ローム粒子
3	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ローム粒子、カーボン粒子
4	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	
5	Hue 7.5 YR 5/8 明褐色	ロームブロック

14D区に位置する。西側は調査区外である。第26号住居跡より古い。長径—1.45m前後の楕円形



第34图 土壤(7) 第50号~58号土壤

を呈するものと思われる。深さ一約0.70mで覆土は暗褐色系、遺物を多く出土する。

第55号土壌 (第34図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 3/3 暗褐色	ローム粒子 (少)、焼土粒子、カーボン粒子 (極少)
2		ローム粒子 (少)、ローム小ブロック (少)、カーボン粒子 (少)、軟質褐色ブロック (多)
3		ローム粒子 (少)、ロームブロック (少)。1、2に比してやわらかい。
4		ローム粒子 (極少)
5		ローム小ブロック (少)
6	Hue 7.5 YR 4/6 褐色	ロームブロック (多)
7	Hue 7.5 YR 3/4 暗褐色	カーボン粒子 (極少)、ロームブロック (少)
8	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ロームブロック (少)
9		7に比して若干明るい

15C区に位置する。近世SXに削平される。長径一1.10m、短径一0.93mの楕円形を呈し、深さ一2.25m、覆土は、暗褐色系、下層はロームブロックを含むしまりのない層で遺物は少ない。

第56号土壌 (第34図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 5/4鈍い褐色	ローム粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ローム粒子 (少)
3	Hue 7.5 YR 3/3 暗褐色	ローム粒子、カーボン粒子
4	Hue 7.5 YR 4/4 褐色	カーボン粒子 (多)
5	Hue 7.5 YR 6/4鈍い褐色	カーボン粒子 (少)

14A～15A区に位置する。南西部分をⅡ・SB1に切られる。第24号住居跡より新しい。長径一1.20m前後の円形を呈する。深さ一0.50mで北側底部付近でオーバーハングする。覆土は暗褐色系でカーボン粒子を含むが遺物は少ない。

第57号土壌 (第34図)

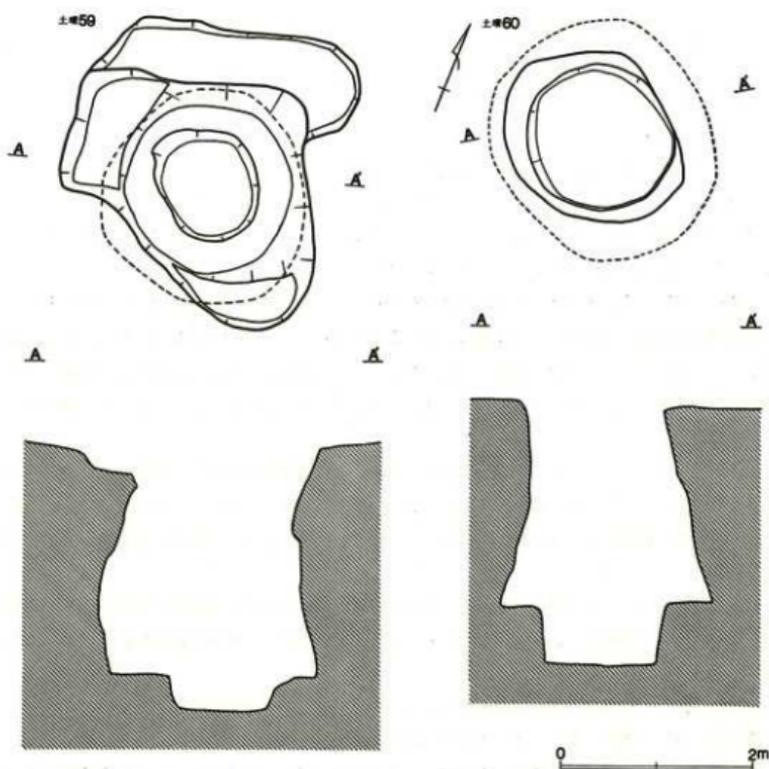
層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	
2	Hue 7.5 YR 5/6 明褐色	
3	Hue 7.5 YR 5/8 明褐色	ローム質

15A区に位置する。直径一1.05m前後の円形を呈する。深さ一0.34mと浅く、覆土は褐色系で遺物も少ない。

第58号土壌 (第34図)

層位	色 調	内 容 物
1	Hue 7.5 YR 4/2 灰褐色	ローム粒子 (少)、カーボン粒子 (少)
2	Hue 7.5 YR 5/4鈍い褐色	カーボン粒子 (少)
3	Hue 7.5 YR 6/4鈍い褐色	
4	Hue 7.5 YR 4/3 褐色	ロームブロック (少)、カーボン粒子 (少)
5	Hue 7.5 YR 5/6 明褐色	

14D区に位置する。近世SXに削平される。直径一1.70m前後の円形プランを呈するものと思わ



第35図 土坑(8) 第59号~60号土坑

れる。壁下に浅い段を有し、東側中央部で、円形に窪む。深さ $0.97m$ 。覆土は暗褐色系で、カーボン粒子を含み、遺物も多く出土している。

#### 第59号土坑(第35図)

16B~17B区に位置する。縄文期土坑の北限である。直径 $2.50m$ 、短径 $2.20m$ の略円形を呈する。北限及び西側に1段浅い掘り込みがある。深さ $2.80m$ とかなり深く、中位~下位にかけてオーバーハングし袋状を呈する。底面でさらに1段浅いピットが掘り込まれる。覆土は、黒褐色系でカーボン粒子を含み、上層より多くの遺物が出土している。

#### 第60号土坑(第35図)

15B区に位置する。直径 $1.70m$ 前後の円形プランを呈する。深さ $2.80m$ 、最大径は底部付近にあり、深さ $2.30m$ を計る。フラスコ状を呈する。底面付近で1段ピットが掘り込まれる。覆土は、黒褐色系でカーボン粒子を含む。遺物は上層から多く出土し、中層から大型片が出土する。

## 2 縄文時代の遺物

### 2-1 住居跡出土の土器

#### 第1号住居跡出土土器（第36図、第37図）

〔分布状況〕 ①濃密な分布を示す部分は見出し得ないが、北半部に比較的多く分布する。②北半部に比して南半部の分布が少ない。③入口部付近はさらに少なくなる。④壁下は概して遺物が少なく、分布の希少な部分がリング状に形成される。

〔構成状況〕 ①大きさは、20cm×20cmを最大ピークとし、20cm×30cm、30cm×30cmがそれに続く。10cm×10cm以下は少ない。②重量は、0～9gをピークとして徐々に減少するが、30g～50g付近でもたつきがある。③土器器面に付着したカーボンは46片認められた。④時期の判明するものでは4期が最大で3期がそれに続く。⑤手法は、8、9、7の順であり、3、5、6と減少する。

#### 〔土器分類〕

第3類（1～5） C→Jの施文手法を持つもの。1は貫通孔を有する小把手を有し、盲孔、沈線によって縁とられる。若干肥厚し「く」字状に内彎する口縁部には、2本沈線間に列点を充填する|・文様帯が配される。2～5は胴部片で、3は直角に近い角度での刺突、他は押し引き状の刺突である。

第5類（6～17） J→C→研磨の施文手法を持つもの。6は|・文様帯に盲孔、沈線による長楕円形のモチーフを配する。7は、貫通孔を有する小把手を持ち、裏面に盲孔が配される。10、11は口縁部下に無文帯が配される。

第6類（19） J→Cの施文手法を持つもの。縦位のコンパス文状のモチーフが配される。

第8類（28） 縄紋が配される。現状では第6類かどうかは不明である。

第9類（20～27） C系の施文手法を持つもの。20は、盲孔、沈線文による|・文様帯を有する。21は、口縁部に文様帯を持たず、口縁直下の横線によって無文帯を区画する。他は1本描きによる沈線文が配される。

#### 第2号住居跡出土土器（第38図、第39図）

〔分布状況〕 分布状況は全体に散漫であるが①南西側壁下に集中部分が認められる。②壁下には部分的に空白部が認められる。③床面から浮いた状態での出土が多い。

〔構成状況〕 ①大きさは20cm×20cmをピークとし、30cm×30cm、20cm×30cmと続く。②重量は0～9gがピークで順次減少するが、40g～49g付近で若干のもたつきがある。③カーボンが付着するもの18片で全体の割合は低い。④時期は4期が最多であるが順次減少する傾向にある。⑤手法は2、7が多く、6、5、3、1の順である。

#### 〔土器分類〕

第1類（1～4） 微隆起線を持つもの。1は管状の把手部分であり円孔を有する。4は沈線文系列で細い沈線間に充填縄紋を配する。

第2類(5~11) C→Jの施文手法を有するもの。5、6は口縁部片で6は頂部に盲孔を有する。縄紋はいずれもLRである。

第3類(13、14) C→Ctの施文手法を持つ。14はくし状工具による押し引き状の刺突である。

第5類(17~24) C→J→研磨の施文手法を持つ。18は、(R→Ct)の隆帯を配する。22は、波状口縁頂部で貫通孔、盲孔が配される。

第6類(25~26) J→C手法。26は肥厚する口縁部断面を持ちLRの縄紋が配される。

第9類(27~30) C手法、27は口縁部に無文部を有する。他は1本描きによる沈線文である。

### 第3号住居跡出土土器(第40図、第41図、第103図1)

〔分布状況〕 ①全体的に遺物分布は散漫で集中部分が少ない。②壁下には遺物の少ない部分がリング状に分布する。③入口部分には遺物の分布が全く認められない。

〔構成状況〕 ①大きさは、20cm×20cm、30cm×30cmにピークがある。②重量は0~9gをピークとして暫時減少する。③カーボンが付着する土器片は10片でほぼ一割である。④時期は、4期がピークで3期へと続く。⑤手法は、8をピークとし、9、7、6が続く。

#### 〔土器分類〕

第2類(1) C→J手法。幅広い沈線間に細縄紋が配される。

第3類(6、第103図1) C→Ct手法。6はくし状工具によるCtが配される。第103図1は、「く」字状に屈曲する口縁を有する。2本沈線間に単列刺突を配し・文様帯とする。頸部には横走る2本の沈線が認められる。

第4類(7) Ct手法。全体は不明であるが区画を伴わない刺突が配されるものと思われる。

第9類(3、10、11、12) C手法。3は波状口縁で円形の把手を有する。口辺部、把手部にきざみが配される。10は、深鉢Bで一応本類としておく。

### 第4号住居跡出土土器(第41図)

全体で14片しか出土していない。第3類(1)と第9類(2)である。1は、先端の丸い工具による刺突である。

### 第5号住居跡出土土器(第42図、第43図、第44図)

〔出土状況〕 あまり多く出土していないが、①壁下には遺物は少なく、西側ビット部以外は無遺物である。②西側に第9類のグループが、中央に第1類・第2類が集中する傾向があり、南側グループは流れ込みと想定される。③第7号住居跡の壁際が一部を除いてリング状に遺物が少なくなる。これは第7号住居跡が新しい事を物語る。

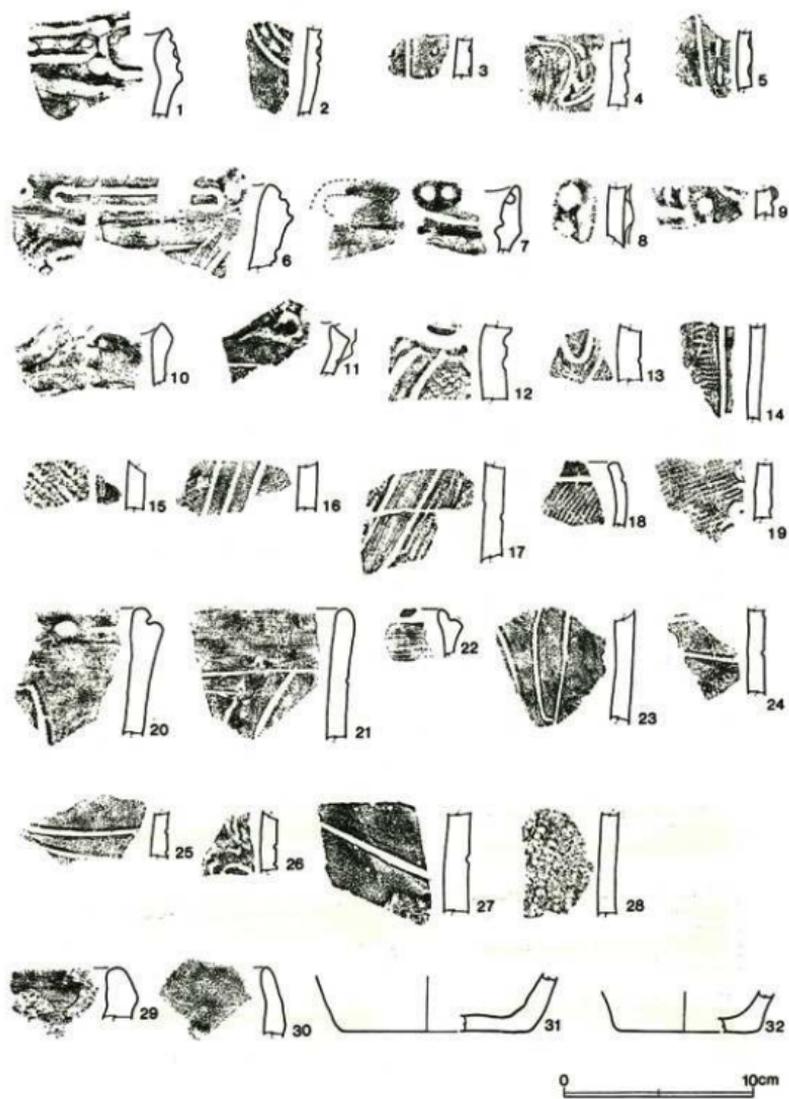
〔構成状況〕 ①大きさは20cm×20cm、30cm×30cm、20cm×30cm付近にピークがある。②重量は0~9gがピークで暫時減少する。③カーボンの付着する土器片は19片出土している。④時期は1期をピークとし、他はほぼ同量である。⑤手法は1、2、9が主体で3~6は極端に少ない。

#### 〔土器分類〕

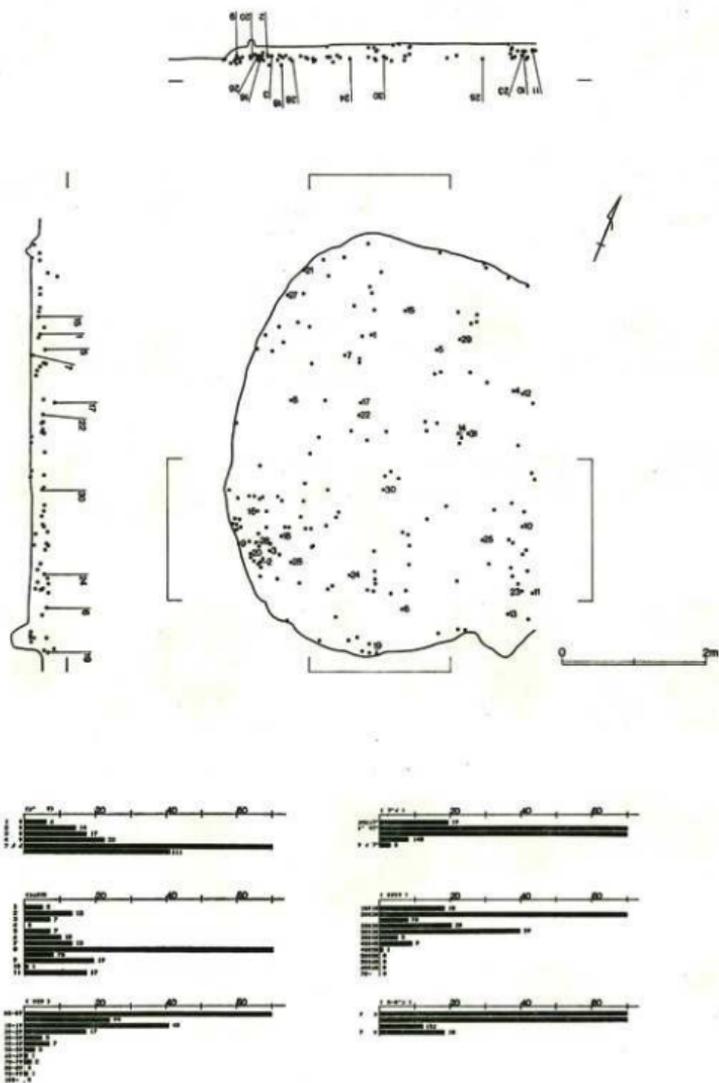
第1類(1~5) R→J手法。1は波状口縁で口縁部に無文部が付く。2はR下に「ナソリ」が認められる。5は把手部である。

第2類(6~12) C→J手法。6は波状口縁で口辺部に縄紋が充填される。7も同様である。

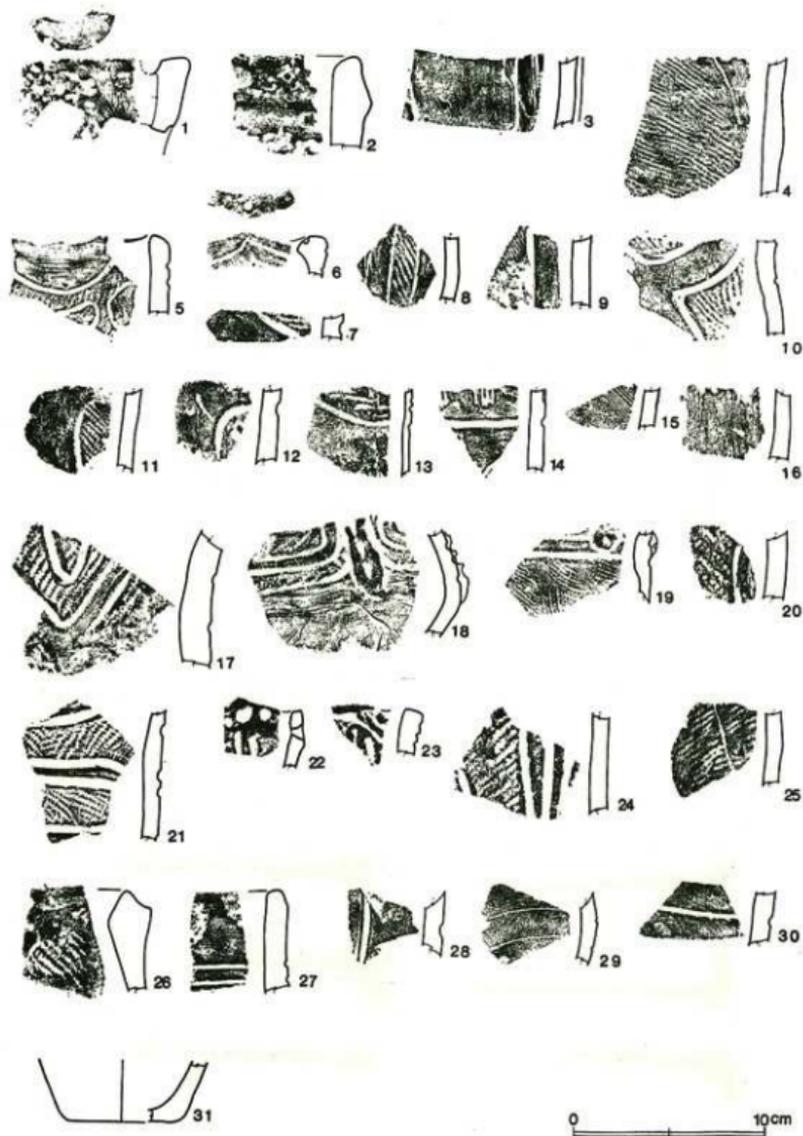




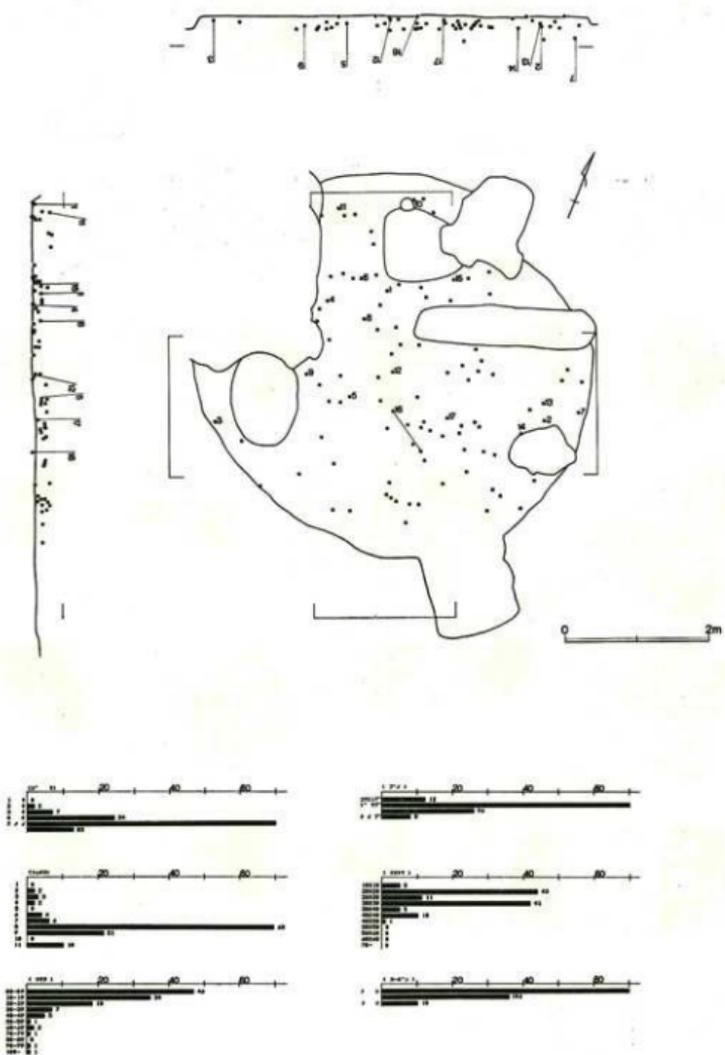
第37图 第1号住居跡出土土器拓影图



第38图 第2号住居跡出土土器分布図・構成表

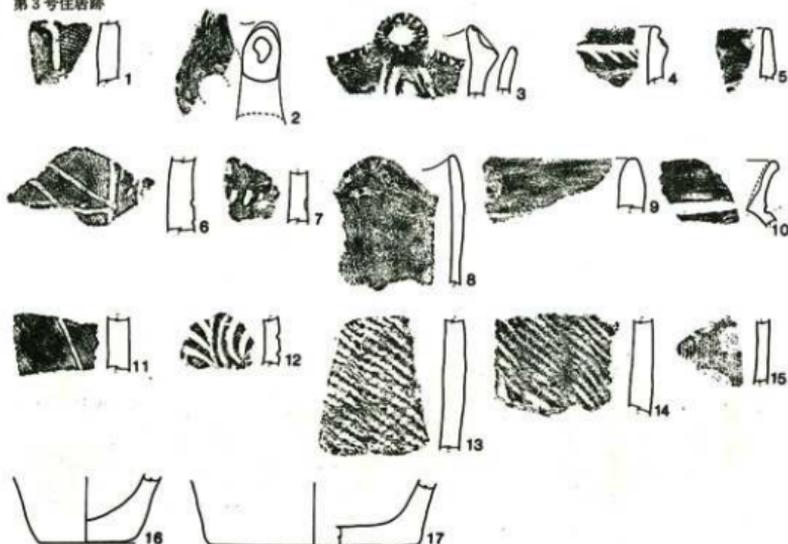


第39圖 第2号住居跡出土土器拓影圖

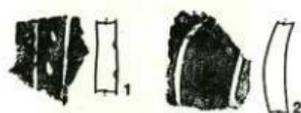


第40图 第3号住居跡出土土器分布图・構成表

第3号住居跡



第4号住居跡



第41図 第3号・4号住居跡出土土器拓影図

8、9は口辺部に無文部が認められる。8は内側に肥厚する断面形状を有する。

第10類 (15) R→Ct手法。波状口縁頂部に盲孔を配する。R上、及びRに沿った浅い沈線中、盲孔周囲にCtが配される。焼成はきわめて粗である。

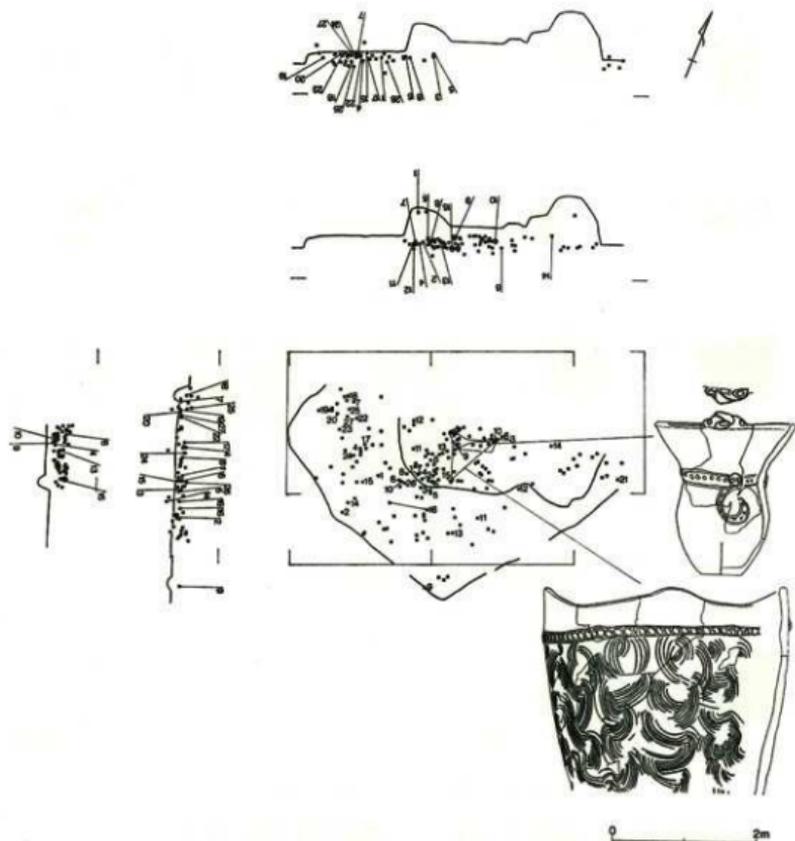
第4類 (16~18) Ct手法。同一個体。端部で鋭る断面形状を有する波状口縁。区画されないCtが全面に配される。18は、無文部下に2列のCt列がある。一応本類としたが第10類かも知れない。

第9類 (20~24) C手法。1本描き沈線で文様が描かれる。

第6号住居跡出土土器 (第45図、第46図)

〔分布状況〕 ①全体的に散漫であるが西側に部分的集中部がある。②壁下は、リング状に無遺物部分が廻る。③入口部内側には遺物が少ない。

〔構成状況〕 ①大きさは、20cm×20cm、30cm×30cm前後がピークで、他は暫時減少する。②重量は、0~9gがピークで暫時減少する。③カーボンが付着する土器片は25片認められた。④時期は、4期が最大で3期が続く。⑤手法は、9、6が多く、2、3が続く。



第42図 第5号・7号住居跡出土土器分布図・構成表(1)

〔土器分類〕

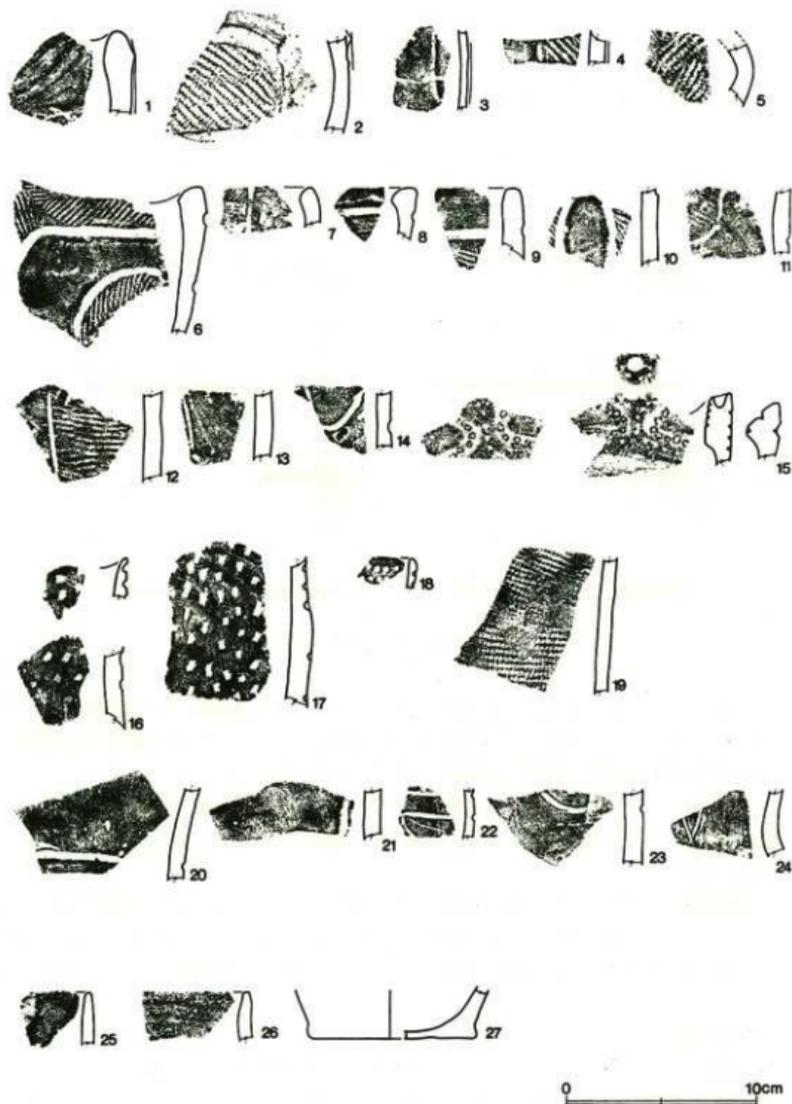
第1類(1) R→J手法。

第2類(2) C→J手法。三角形のモチーフが配される。第1期C→J系であろう。

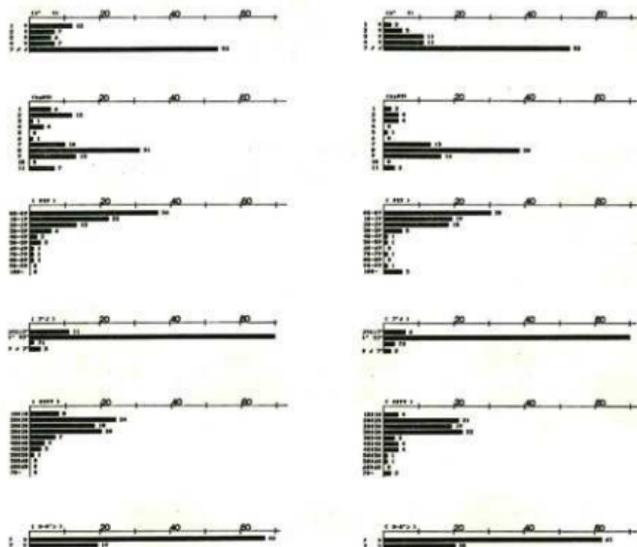
第3類(3, 4) C→Ct手法。3は斜角の刺突、4は直角に近い角度の刺突である。

第5類(6~8, 10~14) J→C→研磨手法。6は波状口縁頂部に貫通孔を有する。裏面は、両端に盲孔を有する「C」字状文、2本沈線間に刺突文を配する。7は、口縁部にC、R→Ctが配配される。8は、口縁部に大きいCtが1列配される。10は、盲孔と楕円形文による|・文様帯がされる。

第6類(15) J→C手法。1本描き沈線による蛇行文が配される。



第43图 第5号住居跡出土土器拓影图



第44図 第5号・7号住居跡出土土器分布図・構成表(2)

第9類(5、9、16、20~23) C手法。5はくし状工具による沈線文。9は、横走沈線による|・文様帯を有し、以下に蛇行文、胴部中央で再度区画されるらしい。他は1本描きによる沈線文。  
第7号住居跡出土土器(第42図、第44図、第47図、第103図2、3)

〔分布状況〕 ①炉址部分、中央部に遺物が集中する。②入口部及び壁下は遺物は少ない。③遺物は全体的に床面より浮いている。④炉址上に1類、2類が集中するが、第5号住居跡よりの流入と想定される。

〔構成状況〕 ①大きさは、20cm×30cm、30cm×30cmがピークで他は少ない。②重量は0~9gがピークであるが、10g~19g、20g~29gが続き他は少ない。③カーボンが付着する土器片は20片とかなり高い比率である。④時期は3期、4期が多い。⑤手法は、9が多く、2、3が続くが6は0である。

〔土器分類〕

第1類(1~3) R→C手法。1、3は口縁部。1は無文帯を持ち苦干内彎する。

第2類(4~8) C→J手法。5は付加象的なLRの縄紋である。7は太めの沈線内に細かい縄紋が充填される。

第3類(9、第102図) C→Ct手法。第102図3は器高約22cm、口径19cmの深鉢Bである。

貫通孔を有する小突起を1個だけ有する。盲孔及び棒状の粘土紐をはり付ける。口唇部に沈線文が配されるが、全周はしない。胴部文様は、屈曲部に2本沈線間に刺突を配して区画し、以下に1対の盲孔を有する小瘤を基点として充填刺突の「J」字状を配する。「J」字状文は3単位配される。

第5類(11) J→C→研磨手法。11は3本沈線間の磨消しである。

第9類(10、第102図2) C手法。10は1本描き沈線による文様を配する。第102図2は現器高34cm、口径33cmの深鉢Aである。4単位の波状口縁を有する。R→Ct手法で口縁部無文帯を区画し、以下に7～9本の節状工具による縦位の蛇行文を密に配する。

#### 第8号住居跡出土土器(第47図)

第1類(1～4) R→J手法。2は(R→C)である一応本類としておく。4は橋状の把手部である。

第2類(6～7) C→J手法、6は深鉢Bと思われる。デッサン時の沈線が縄紋でつぶされる。

第3類(10) C→Ct手法。細めの沈線中にやはりこまかい刺突が配される。

第9類(8、9、11) C手法。8は(R→Ct)手法を有する。

#### 第9号住居跡出土土器(第47図)

第9号住居跡覆土から出土した。1はR→J手法の第1類、2はC→J手法、3はJ→C手法である。4、5はくし状工具によるC手法で9類である。

#### 第10号住居跡出土土器(第48図)

出土土器片が少なく、分布図は略するが、壁下及び入口部には、他住居跡と同様遺物は少ない。

第1類(1、2) R→J手法。2はRが縦位に配され、沈線文が付加されている。

第2類(3、4、6) C→J手法。4の縄紋はLRで付加条的である。

第6類(8) J→C手法。1本描き沈線による文様を配する。

第9類(5、7) C手法。6は口縁部片で、横走る1本描き沈線によって口縁部無文帯を区画し、以下にくし状工具による沈線文を配する。4は、2本沈線間に蛇行文を配する。

#### 第11号住居跡出土土器(第49図、第50図～第53図、第104図1)

〔分布状況〕 ①多数の土器片が出土している。②中央部南側、炉址付近に集中するが西側はかなり粗である。③壁下はリング状に遺物の出土が少ない。④入口部張り出し部分に遺物は少ない。⑤垂直分布は、上層部と下層部に分離するが明瞭な形式差は見出せなかった。

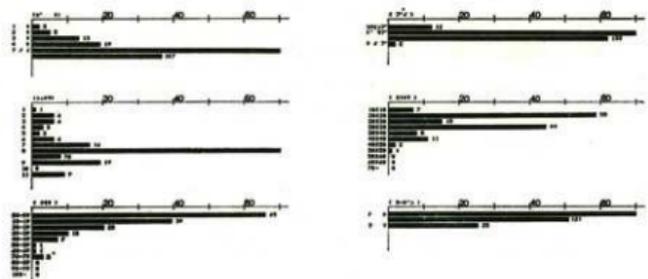
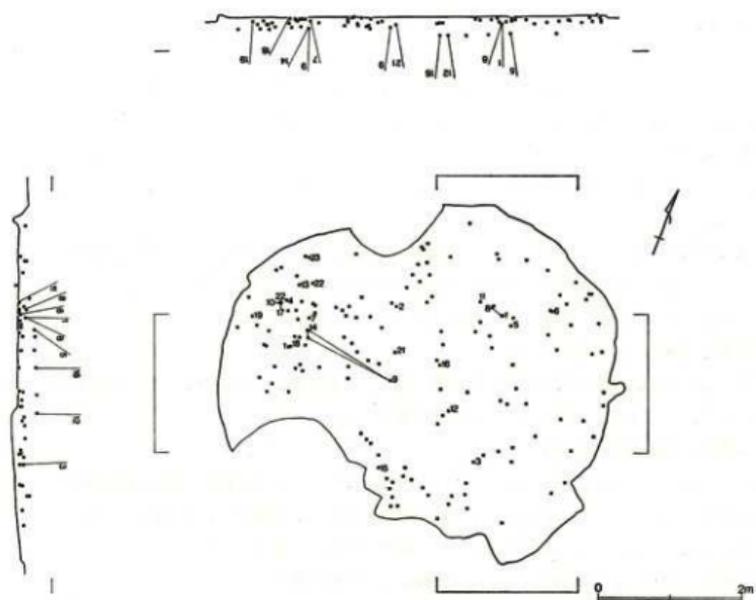
〔構成状況〕 ①大きさは20cm×20cmが最大ピークで他は少ない。②重量は0～9gをピークとして暫時減少する。③カーボンが付着する土器片は174片とかなりの割合である。④時期は4期がピークで3期が続き他は少ない。⑤手法は9、3、5、6が多い。

#### 〔土器分類〕

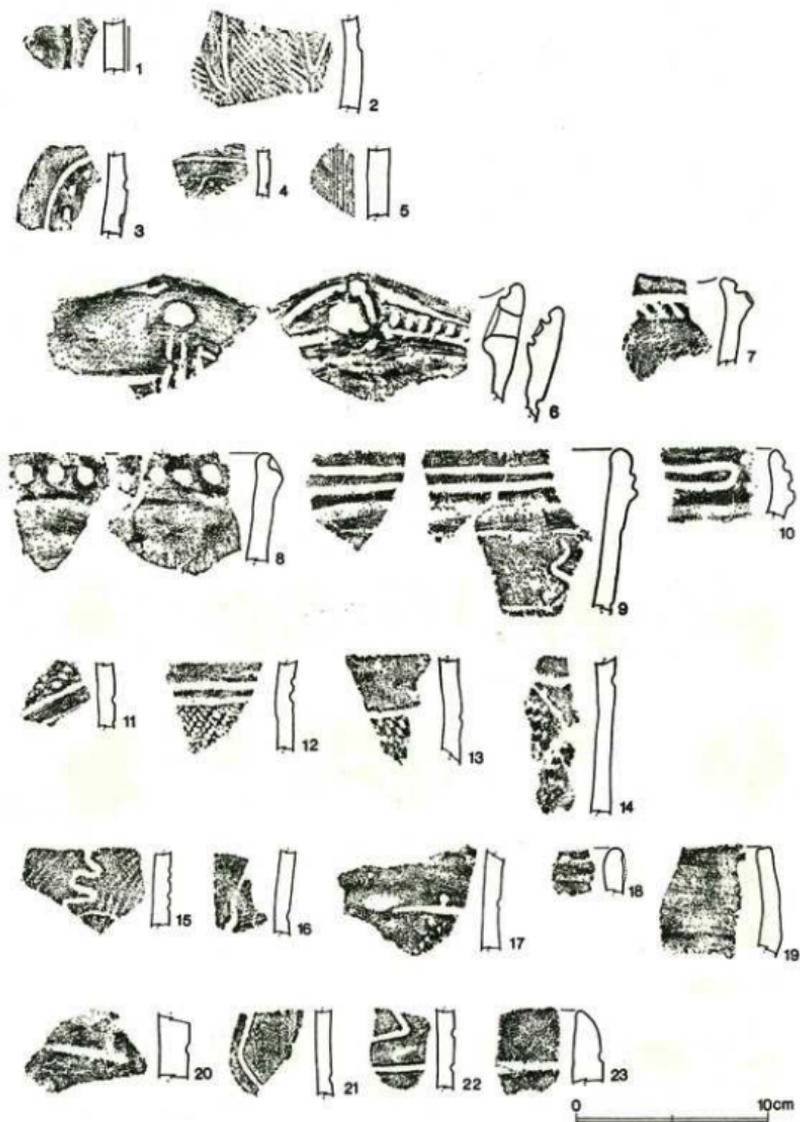
第1類(1～3) C→J手法。1は貫通孔を有する把手部で「8」字状の隆起帯が付する。

第2類(4～19) C→J手法。1は垂下する(R→Ct)を有する。16は「V」字状のモチーフがわずかに垣間見られる。19は(R→Ct)が横位に配され以下に充填縄紋が配されるが、あるいは5類かも知れない。

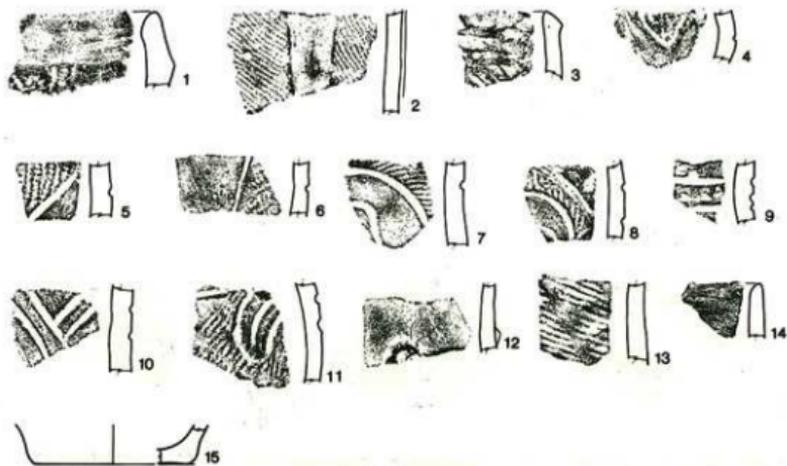
第3類(20～35) C→Ct手法。20は横走沈線によって口縁部無文帯を区画し、充填刺突文を



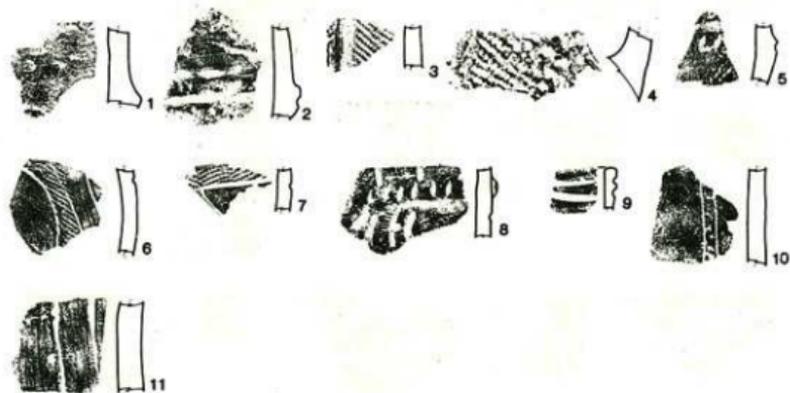
第45图 第6号住居跡出土土器分布图・構成表



第46图 第6号住居跡出土土器拓影图



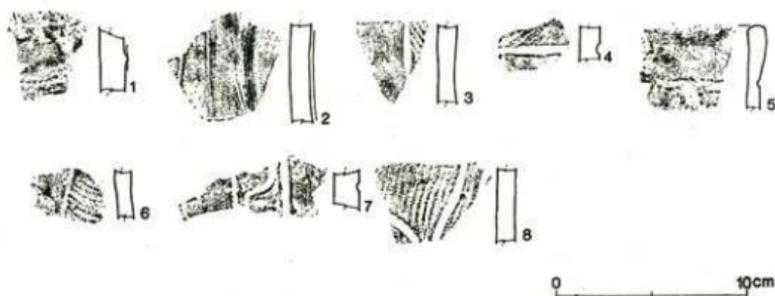
第8号住居跡



第9号住居跡



第47图 第7号~9号住居跡出土土器拓影图



第48図 第10号住居跡出土土器拓影図

配するが、本来無文となるべき部分にも刺突が加わっている。21～25、27、29、30は1列の充填刺突文、28、31は複列の刺突が充填される。26は若干内彎する口縁部で、沈線で区画された口縁部に刺突文が配される。32は刺突というより短沈線状のものが充填される。33～35はくし状工具による沈線が充填される。

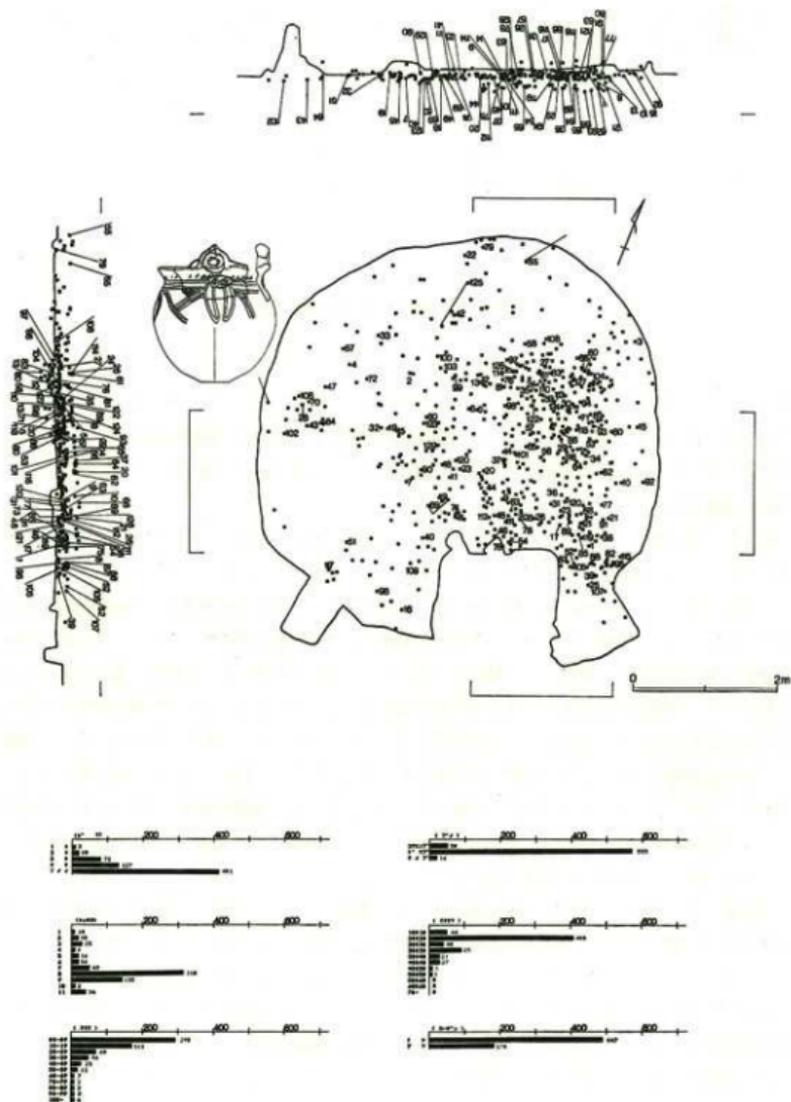
第4類 (54、55) Ct手法。口縁下に横走する1列の刺突列を配し、以下に垂下する刺突列が認められる。55は深鉢Bの屈曲部で、盲孔を有する瘤、垂下する刺突列が認められる。

第5類 (36～41、43～45、47、48、56～58、第104図) J→C→研磨手法。口縁部と胴部片の関係が明瞭でなく、口縁部片の一部は9類かも知れないが、一応本類の中に入れておく。36～38は、口縁部に無文部を有し、隆帯による盲孔、「C」字状文が配される。39は内彎度が高く、(R→Ct)で横区画し、口縁部に短沈線を充填する特異なものである。40、41は、2本沈線間に刺突列を配する|・文様帯を有する。43は、沈線、刺突列による|・文様帯、44は、横走する(R→Ct)で区画し、盲孔の周囲に「C」字状文を配し、沈線による楕円文を|・文様帯に有する。45、47、48は、深鉢Bの屈曲部で「8」字状文が配される。56～58は、J→C→研磨の胴部片である。第104図1は口径一約16cmの深鉢Bである。貫通する突起が付く。屈曲部に2本沈線による区画、頸部にキザミを有し、胴部にJ→C→研磨文を配す。

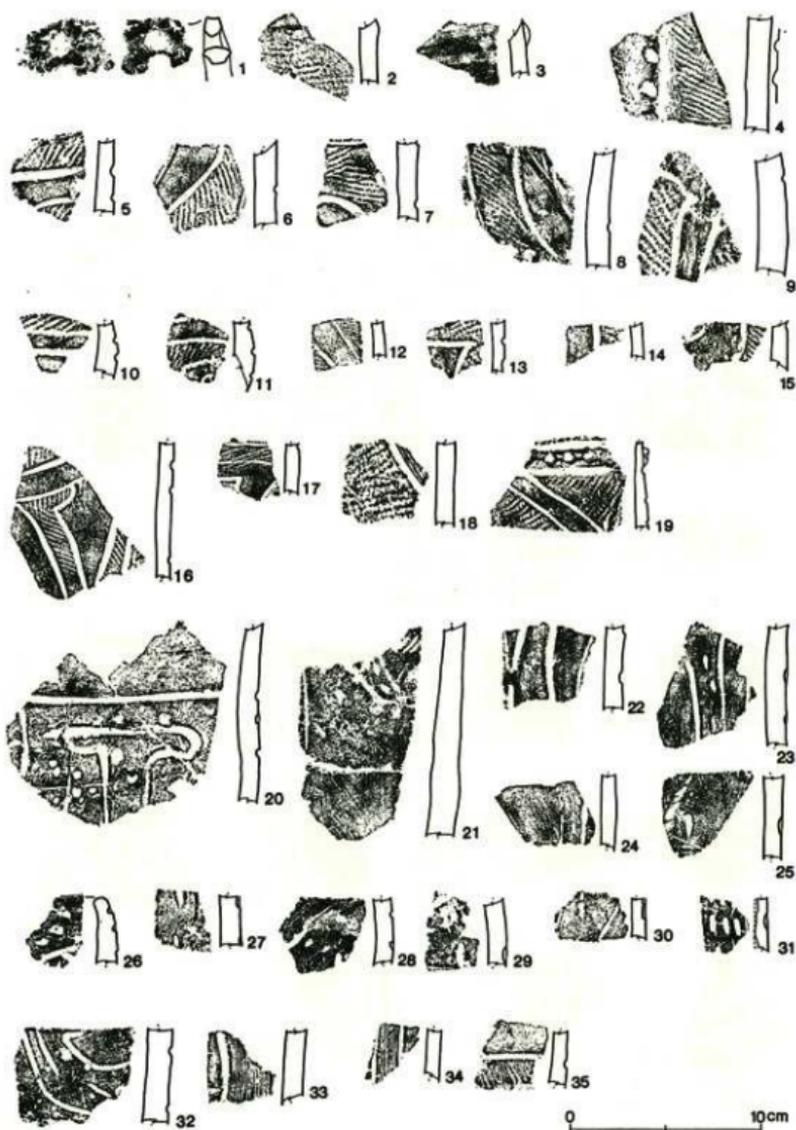
第6類 (98～105) J→C手法。98、99は口縁部片で、口唇部に浅い沈線を1条配する。100は無文部下に蛇行文、101は垂下する蛇行文を配する。105は、付加条的なLRの織紋である。

第9類 (42、46、49～53、59～97、106、107) C手法。42は口唇部に1条の沈線文を配し、以下に(R→Ct)を配し|・文様帯とし、以下に1本描きによる沈線文を配する。46は深鉢Bの屈曲部で横位「8」字状文が配される。49、51、69～72は横走沈線によって口縁部無文帯を形成し、以下に沈線文を配する。50は|・文様帯に浅い刺突列が配される。52は注口土器である。注口部を中心として沈線による楕円文を配し|・文様帯とする。59～68はくし状工具による沈線文が密に配される。73～97、106、107は1本描きによる沈線文である。

第8類 (109～124) 無文のもの。口縁部無文帯で以下に文様を配する可能性もあるが、一応現



第49图 第11号住居跡出土土器分布图・構成表



第50图 第11号住居跡出土土器拓影图(1)